

# 伯耆町人権意識調査結果報告書

(令和3年5月実施)



令和3年9月

伯 耆 町

# 目次

## I 調査の概要

- 1 調査の目的..... 1
- 2 調査の概要..... 1
- 3 他調査との比較..... 1

## II 回答者の属性

- 1 性別..... 2
- 2 年齢..... 2

## III 調査結果

- 1 人権全般..... 3
- 2 同和問題(部落差別) ..... 16
- 3 教育・啓発..... 26
- 4 自由記述..... 36

## IV 調査結果の分析

- 1 分析にあたって..... 39
- 2 差別等の実態について..... 39
- 3 人権に関する考えや認識について..... 39
- 4 同和問題(部落差別)に関する認識について..... 40
- 5 人権教育・啓発の取組について..... 40
- 6 まとめ..... 42

(この報告書は、文字のバリアフリー化を図るため、「UDフォント」を使用しています。)

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

伯耆町人権意識調査は、伯耆町民の人権意識等を把握するとともに、第3次伯耆町人権施策推進計画の策定に反映させるための基礎資料を得ることを目的として実施した。分析では、鳥取県人権意識調査（令和2年5月）結果や伯耆町人権意識調査（平成28年5月）結果との比較・検討を行った。

## 2 調査の概要

- (1)調査対象 伯耆町内在住の16歳以上の者 1,200名
- (2)抽出方法 住民基本台帳に基づく無作為抽出法
- (3)調査客体数 (2)により抽出した者に送付した調査票に関し、宛先又は移転先不明等により返送された調査票を除いた 1,194名
- (4)調査期間 令和3年5月20日(木)から6月11日(金) 消印有効
- (5)調査方法 郵送により調査票を送付して実施(調査票の提出は無記名とした。)
- (6)有効回答数 559名
- (7)回収率 46.8%(559/1,194)
- (8)標本の必要数 今回の調査の標本必要数は、鳥取県統計課が統計調査の必要標本数の算出に用いる下記の数式によった。

$$A = \frac{N}{\left[ \frac{\varepsilon}{X(\alpha)} \right]^2 \cdot \frac{N-1}{\sigma^2} + 1}$$

- A = 必要標本数  
α = 推定を誤る確率  
X(α) = 正規分布の性質から与えられる値(1.96)  
N = 母集団の大きさ(満18歳以上75歳未満の県民)  
σ<sup>2</sup> = 母分散  
ε = 精度

N=9,334名・X(α)=正規分布の性質から与えられる性質 1.96・σ<sup>2</sup>=母分散50%・ε=精度5%  
左記の式から与えられる必要な標本数は  
369.012÷370枚  
回収した標本数は559名であるから本調査は信用できる。

## 3 他調査との比較

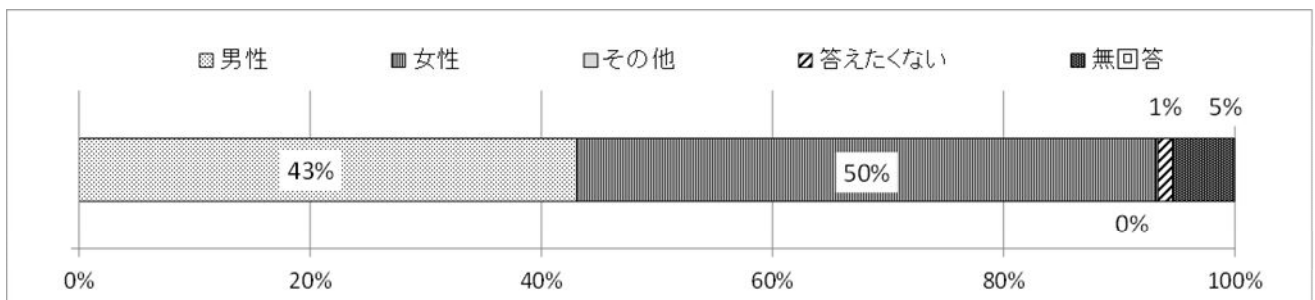
	伯耆町今回調査	伯耆町前回調査	鳥取県調査
調査対象	16歳以上の伯耆町民	16歳以上の伯耆町民	16歳以上の鳥取県民
該当人口	9,334名	9,931名	477,860名
抽出方法	住民基本台帳に基づく無作為抽出	→ //	→ //
調査客体数	1,194名	1,104名	2,984名
配布割合	12.8%	11.1%	0.6%
調査時期	令和3年5月	平成28年5月	令和2年5月
調査方法	郵送による配布・回収	→ //	→ //
有効回答数	559名	448名	1,414名
回収率	46.8%	40.6%	47.4%

## Ⅱ 回答者の属性

### 1 性別

回答者を性別で見ると、男性が43%、女性が50%、答えたくない・無回答が6%となっている。

男性	女性	その他	答えたくない	無回答	計
241	280	1	7	30	559
43%	50%	0%	1%	5%	100%

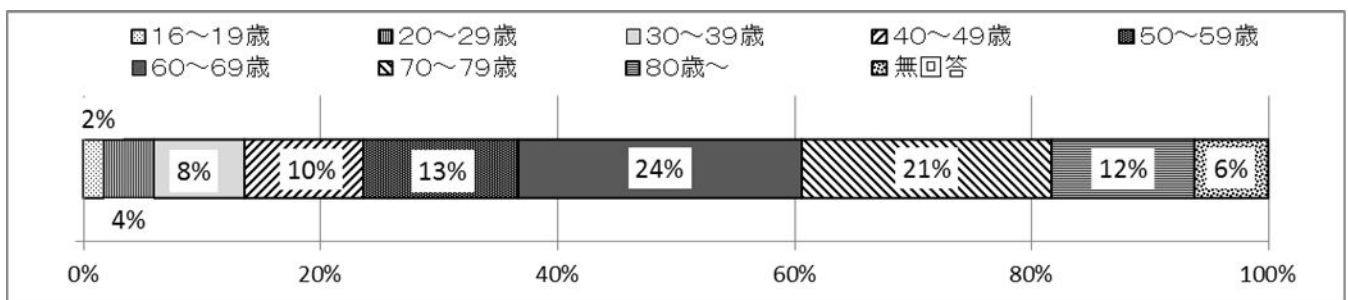


### 2 年齢

回答者を年齢別で見ると、16～19歳が2%、20歳代が4%、30歳代が8%、40歳代が10%、50歳代が13%、60歳代が24%、70歳代が21%、80歳以上の年代が12%となっている。

16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳
10	23	43	56	73
2%	4%	8%	10%	13%

60～69歳	70～79歳	80歳～	無回答	計
134	118	67	35	559
24%	21%	12%	6%	100%

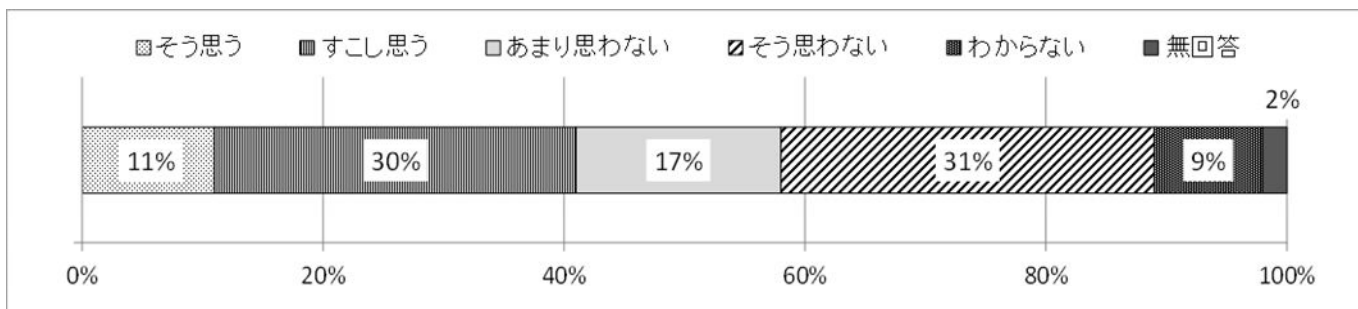


# Ⅲ 調査結果

## 1 人権全般

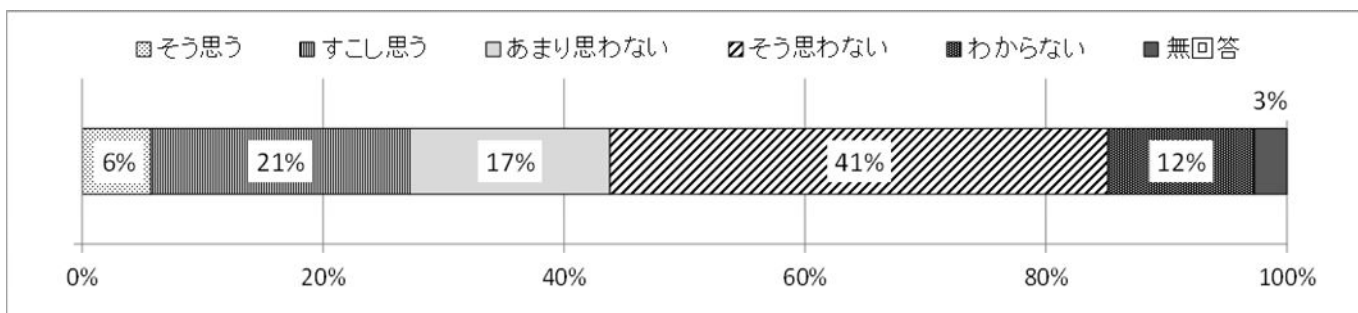
問1 次のような考えについて、あなたはどのように思われますか。次の(1)～(14)のすべてについて、あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。(それぞれ1つに○)

(1)差別だ、差別だ、と騒ぎすぎる人が多い。



「差別だ、差別だ、と騒ぎすぎる人が多い」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が41%、県の36%と比べて※5ポイント高くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた者の割合が48%、県の55%と比べて7ポイント低くなっている。

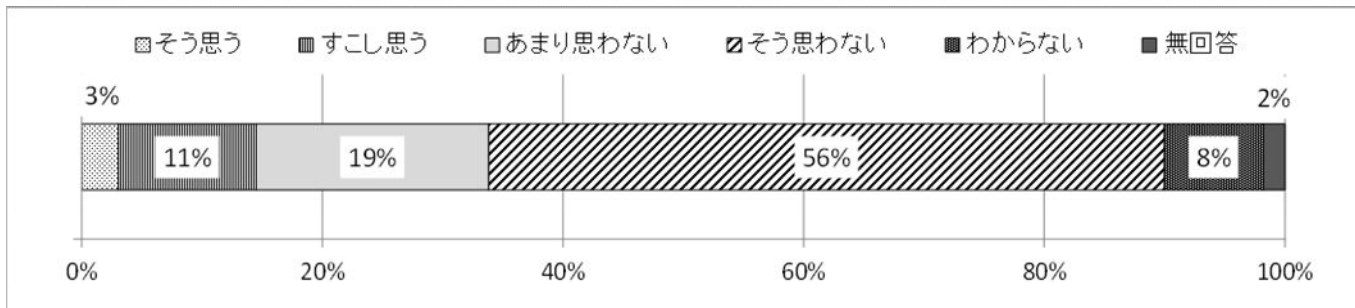
(2)差別される人にも、それだけの理由がある。



「差別される人にも、それだけの理由がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が27%、県の25%と比べて2ポイント高くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた者の割合が58%、県の62%と比べて4ポイント低くなっている。

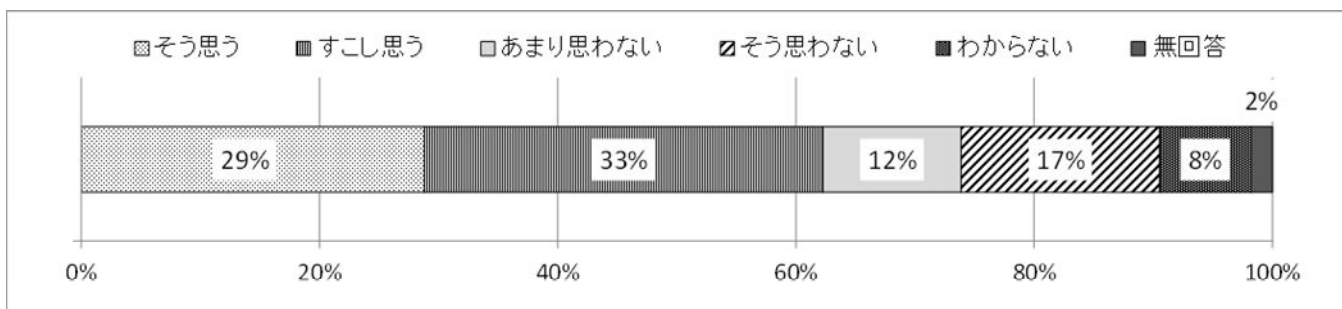
※アンダーライン・・・5ポイント以上の差がある部分

(3)さまざまな人権問題が話題になるが、自分とは関係のないことだ。



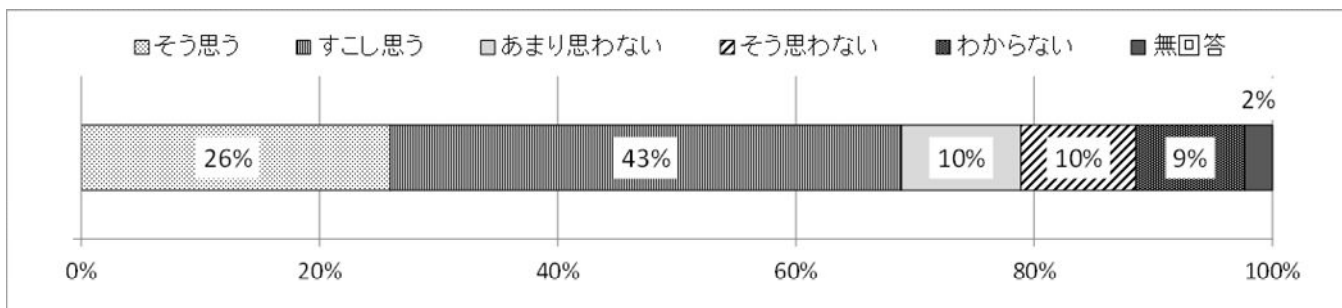
「さまざまな人権問題が話題になるが、自分とは関係のないことだ」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が14%、県の15%と比べて1ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた者の割合が75%、県の77%と比べて2ポイント低くなっている。

(4)子育て中の女性には、出張が必要となるような仕事を担当させるべきではない。



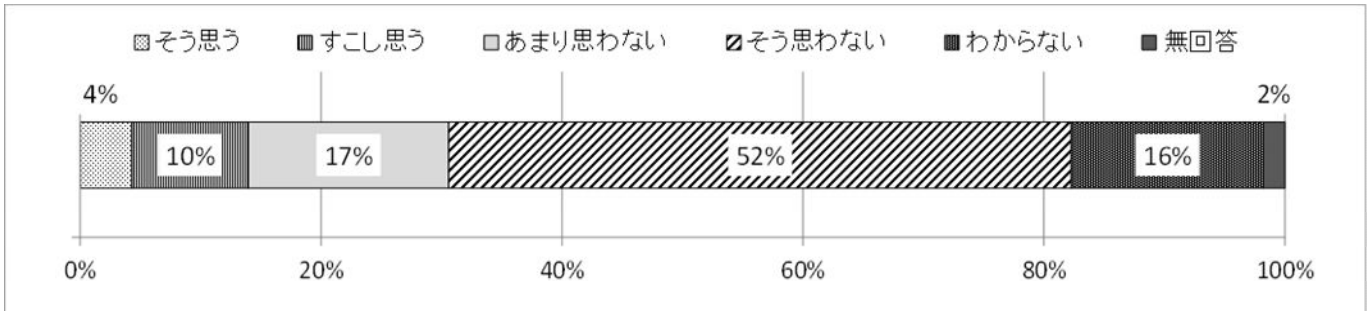
「子育て中の女性に、出張が必要な仕事を担当させるべきではない」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が62%、県の67%と比べて5ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた者の割合が29%、県の26%と比べて3ポイント高くなっている。

(5)障がいのある人が困難を経験するのは、周りの環境や制度などが障がいのない人(多数派)に合わせて作られているからだ。



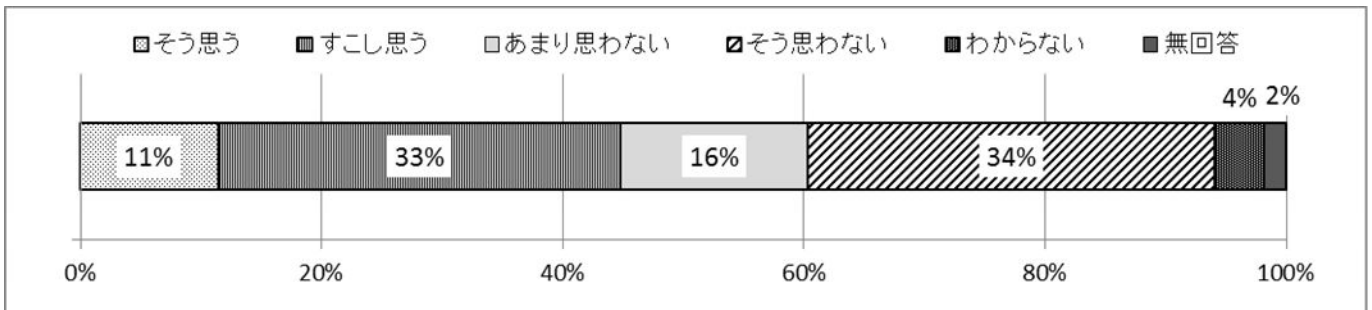
「障がいのある人が困難を経験するのは、周りの環境や制度などが障がいのない人(多数派)に合わせて作られているからだ」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が69%、県の73%と比べて4ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた者の割合が20%、県の17%と比べて3ポイント高くなっている。

(6) 自宅近くに精神科病院が建設されることには反対する。



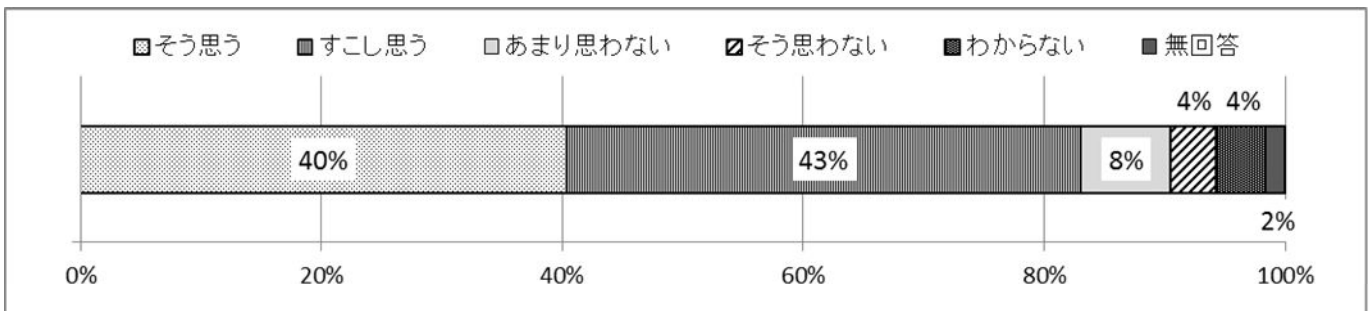
「自宅近くに精神科病院が建設されることには反対する」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が14%、県の16%と比べて2ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた者の割合が69%、県の69%と同じになっている。

(7) 保護者が子どものしつけのために、叩いたり怒鳴ったりすることは、ある程度は仕方がない。



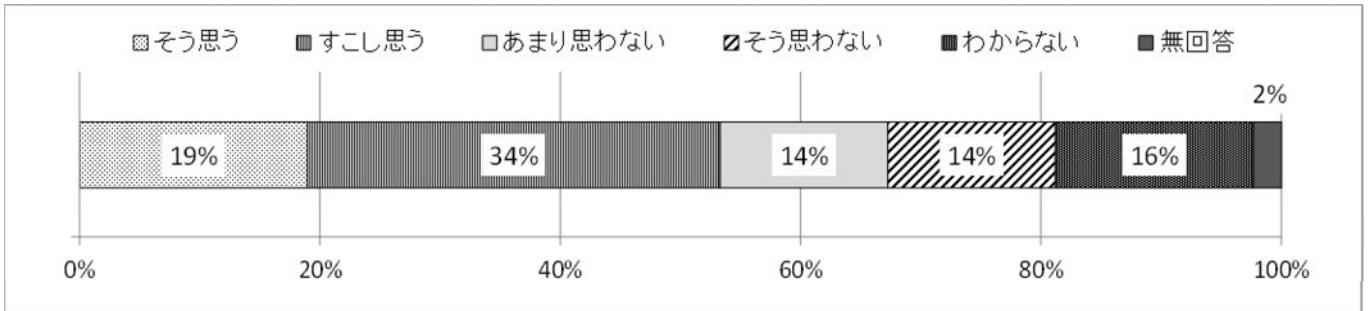
「保護者が子どものしつけのために、叩いたり怒鳴ったりすることは、ある程度は仕方がない」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が44%、県の49%と比べて5ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた者の割合が50%、県の45%と比べて5ポイント高くなっている。

(8) 子どもの問題を家庭だけの責任にするのではなく、公的な支援も必要だ。



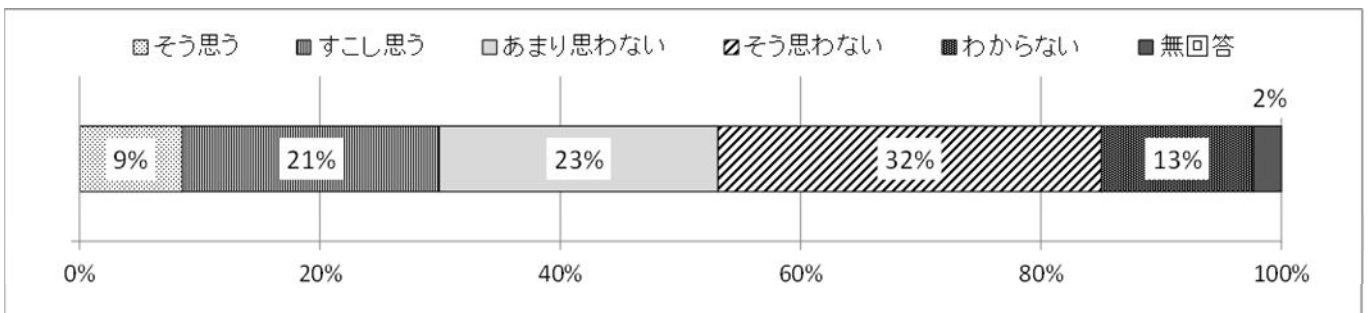
「子どもの問題を家庭だけの責任にするのではなく、公的な支援も必要だ」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が83%、県の83%と同じになっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた者の割合が12%、県の11%と比べて1ポイント高くなっている。

(9) 高齢者の人権や命が軽んじられたりする風潮に不満がある。



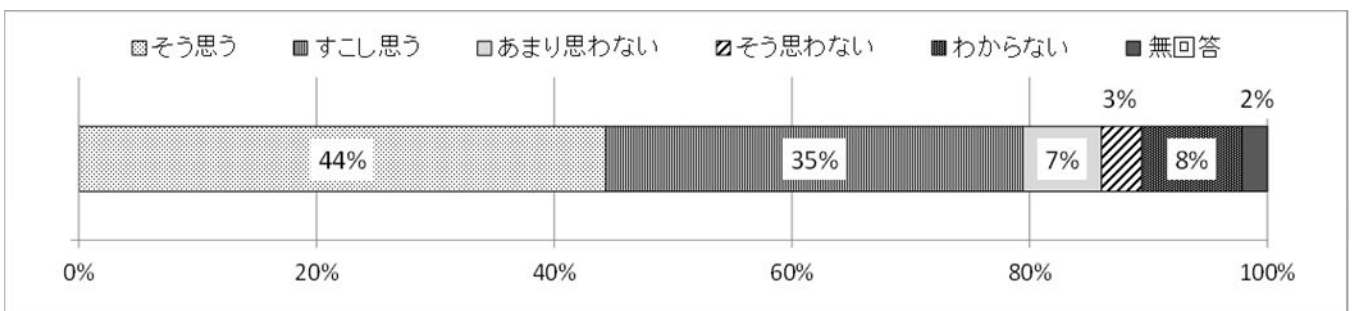
「高齢者の人権や命が軽んじられたりする風潮に不満がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が53%、県の54%と比べて1ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた者の割合が28%、県の31%と比べて3ポイント低くなっている。

(10) 外国人が増えると治安が悪くなる。



「外国人が増えると治安が悪くなる」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が30%、県の35%と比べて5ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた者の割合が55%、県の51%と比べて4ポイント高くなっている。

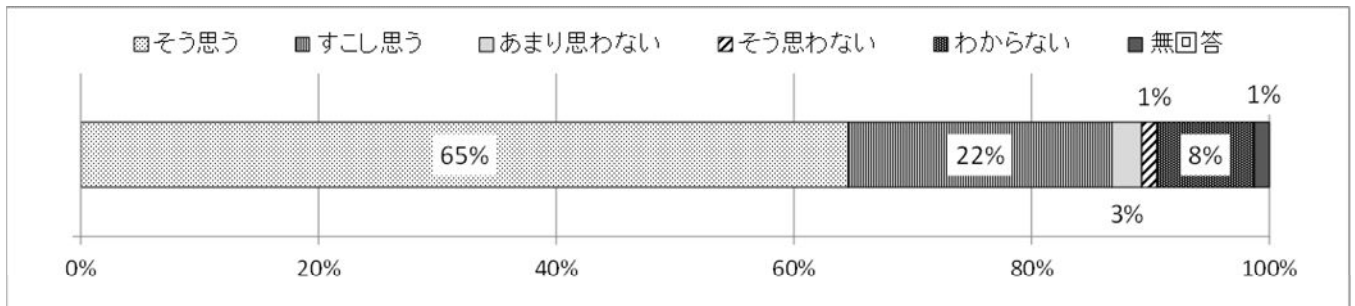
(11) 日本で暮らす外国人が、母国の言葉や文化を大切にすることを尊重すべきだ。



「日本で暮らす外国人が、母国の言葉や文化を大切にすることを尊重すべきだ」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が79%、県の79%と同じになっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた者の割合が10%、県の11%と比べて1ポイント低くなっている。

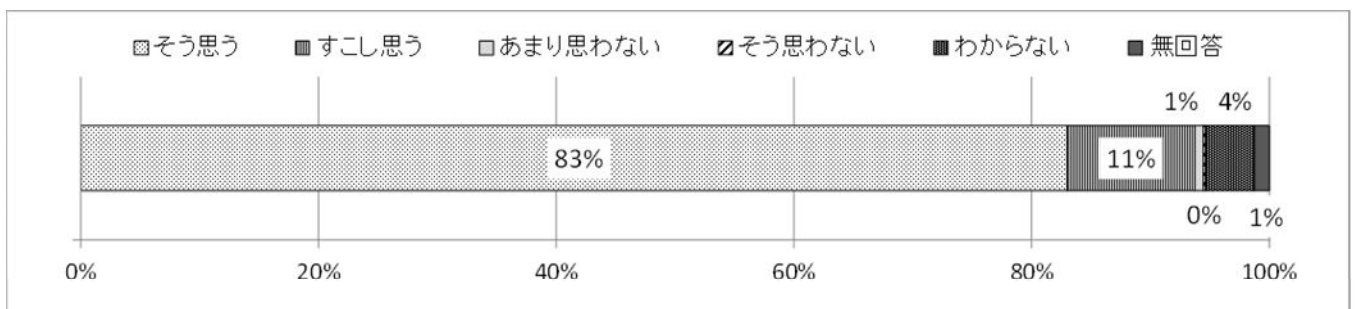


(12)ハンセン病元患者に対して、宿泊施設、店舗等への入店や利用を拒否することがあってはならない。



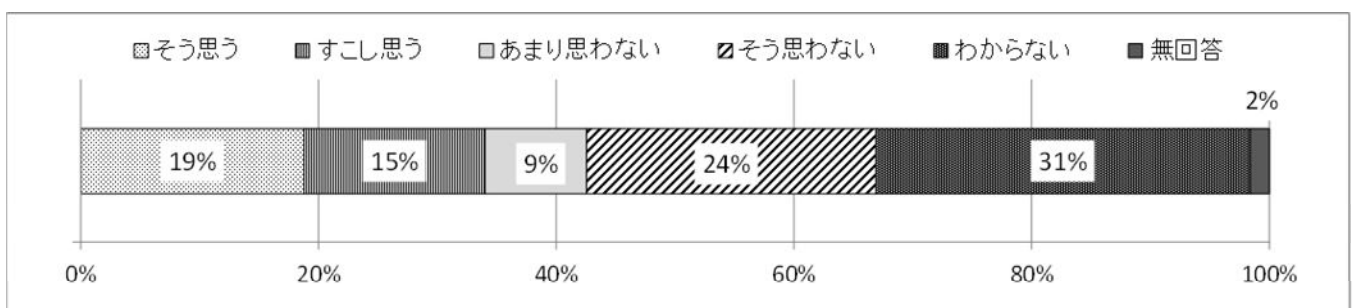
「ハンセン病元患者に対して、宿泊施設、店舗等への入店や利用を拒否することがあってはならない」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が87%、県の82%と比べて5ポイント高くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた者の割合が4%、県の5%と比べて1ポイント低くなっている。

(13)インターネット上の掲示板などに他人の個人情報や悪口を書き込むと人権を侵害する。



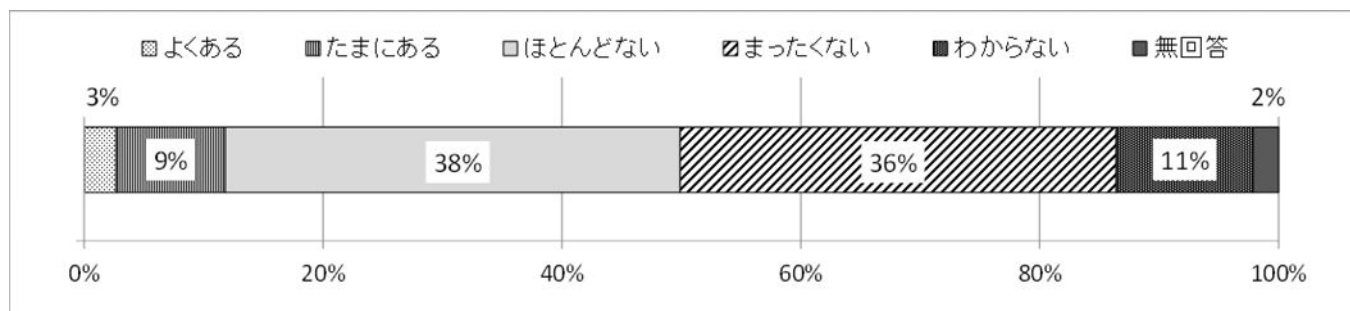
「インターネット上の掲示板などに他人の個人情報や悪口を書き込むと人権を侵害する」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が94%、県の95%と比べて1ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた者の割合が1%、県の2%と比べて1ポイント低くなっている。

(14)性的マイノリティが社会的話題になっているが、自分の周りにはいないと思う。



「性的マイノリティが社会的話題になっているが、自分の周りにはいないと思う」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた者の割合が34%、県の35%と比べて1ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた者の割合が33%、県の35%と比べて2ポイント低くなっている。

問2 過去5年間の日常生活の中で、あなた自身が差別や人権侵害を受けたと思ったことがありますか。  
(1つに○)



「過去5年間で自分自身が差別や人権侵害を受けたことがあるか」については、「よくある」「たまにある」と答えた者の割合が12%、県の16%と比べて4ポイント低くなっている。「ほとんどない」「まったくない」と答えた者の割合が74%、県の73%と比べて1ポイント高くなっている。

町の前回調査と比較してみると、「よくある」「たまにある」の割合(13%→12%)に大きな変化は見られないが、「ほとんどない」「まったくない」の割合(82%→74%)が8ポイント低くなっている。

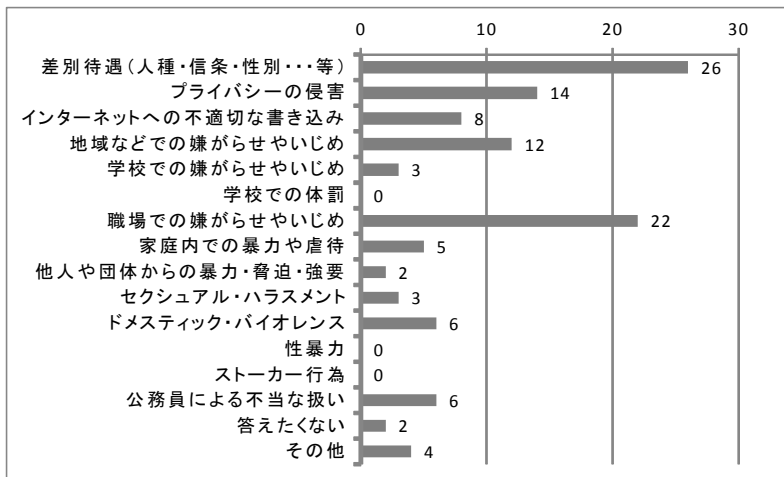
【参考】前回調査「平成28年5月 伯耆町人権意識調査」との比較

～ 設問文の文言の一部が今回調査と異なっているため、参考としてご覧ください。～

問5-1 過去5年間ぐらいの日常生活の中で、あなた自身が差別や人権侵害を受けたと思ったことがありますか。(○は一つだけ)

回答割合(%)	凡例: 1位 2位 3位 (単位:%)										
	合計	性別		年齢							
	全体	男	女	16~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
①よくある	1.6	1.5	1.2	5.6	3.4	0.0	1.8	0.0	0.0	1.6	2.3
②たまにある	11.8	10.7	12.8	16.7	5.1	11.9	12.7	18.6	8.9	17.7	6.8
③ほとんどない	42.0	41.6	42.4	22.2	45.8	23.8	49.1	44.3	54.4	37.1	34.1
④まったくない	39.7	41.1	39.1	55.6	37.3	54.8	36.4	31.4	32.2	38.7	54.5
⑤わからない	3.8	4.1	3.7	0.0	6.8	9.5	0.0	4.3	2.2	4.8	2.3
不明	1.1	1.0	0.8	0.0	1.7	0.0	0.0	1.4	2.2	0.0	0.0

問2-① それはどのようなことですか。(〇はいくつでも)  
(人)



《ベスト5》

- ①差別待遇39%
- ②職場での嫌がらせやいじめ33%
- ③プライバシーの侵害21%
- ④地域での嫌がらせやいじめ18%
- ⑤インターネット12%

【母数66人、複数回答】

【複数回答】「日常生活で受けた差別や人権侵害はどのようなことか」については、上記のとおりである。「インターネット上の掲示板等への不適切な書き込み」は12%で前回調査の2%より 10ポイント 増えている。

【参考】前回調査「平成28年5月 伯耆町人権意識調査」との比較

～ 設問文の文言の一部が今回調査と異なっているため、参考としてご覧ください。～

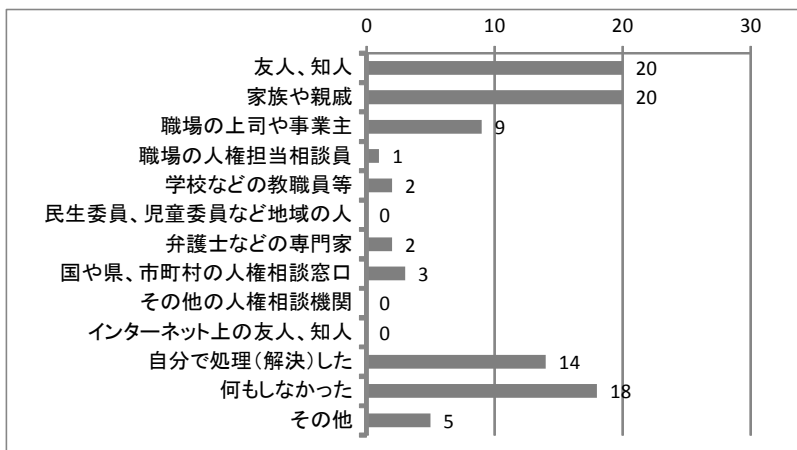
問5-2 問5-1で①または②を選択された方におたずねします。それはどのようなことですか。

(〇はいくつでも)

	凡例:	1位	2位	3位	(単位:%)						
		1位	2位	3位							
	合計	性別		年齢							
回答割合(%)	全体	男	女	16~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
①あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口	58.3	58.3	55.9	50.0	80.0	100.0	25.0	53.8	62.5	66.7	25.0
②名誉・信用の毀損、侮辱	26.7	45.8	11.8	75.0	20.0	40.0	0.0	7.7	50.0	33.3	0.0
③公務員による不当な取扱い	3.3	4.2	2.9	0.0	20.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0
④暴力、脅迫、強要	6.7	8.3	2.9	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
⑤差別待遇	16.7	20.8	11.8	0.0	40.0	40.0	0.0	7.7	12.5	25.0	0.0
⑥地域などでの嫌がらせやいじめ	13.3	16.7	11.8	0.0	0.0	0.0	12.5	15.4	25.0	25.0	0.0
⑦学校での嫌がらせやいじめ	10.0	16.7	2.9	75.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0
⑧学校での体罰	3.3	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
⑨職場での嫌がらせやいじめ	30.0	29.2	29.4	0.0	40.0	40.0	50.0	46.2	12.5	16.7	25.0
⑩家庭内での暴力や虐待	3.3	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
⑪プライバシーの侵害	15.0	12.5	14.7	0.0	20.0	20.0	25.0	0.0	25.0	16.7	0.0
⑫インターネット掲示板等の不適切書き込み	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑬セクシュアルハラスメント	3.3	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
⑭ドメスティック・バイオレンス	5.0	0.0	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	12.5	0.0	25.0
⑮性暴力	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑯ストーカー行為	1.7	0.0	2.9	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑰その他	10.0	12.5	8.8	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0	8.3	50.0

問2-② そのことについて、誰かに相談しましたか。(〇はいくつでも)

(人)



《ベスト5》

- ①友人、知人30%
- ②家族や親戚30%
- ③何もなかった27%
- ④自分で処理した21%
- ⑤職場の上司14%

【母数66人、複数回答】

【複数回答】「差別や人権侵害を受けた時、誰かに相談しましたか」については、「友人、知人」と「家族や親戚」がともに30%で最も多く、以下、「何もしなかった」27%、「自分で処理(解決)した」21%という順になっている。

なお、「国や県、市町村の人権相談窓口(電話相談やメール相談を含む)」が5%で、県の8%と比べて3ポイント低くなっている。

【参考】前回調査「平成28年5月 伯耆町人権意識調査」との比較

～ 設問文の文言の一部が今回調査と異なっているため、参考としてご覧ください。～

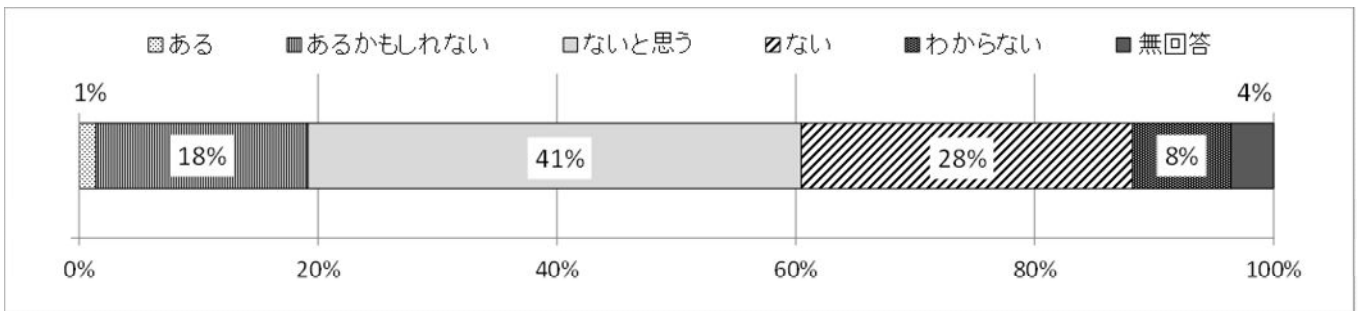
問6-1 あなたは、自分や家族が差別や人権侵害を受けたとき、誰に相談したいと思いますか。

(〇は3つ以内)

凡例: 1位 2位 3位 (単位:%)

回答割合(%)	合計	性別		年齢							
	全体	男	女	16~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
①友人、同僚	42.4	37.6	47.3	55.6	62.7	69.0	40.0	48.6	34.4	25.8	15.9
②家族や親戚	63.2	58.4	68.7	72.2	78.0	83.3	74.5	57.1	53.3	50.0	59.1
③職場の上司や事業主	5.4	5.1	5.3	0.0	11.9	9.5	12.7	4.3	1.1	1.6	0.0
④職場の人権担当相談員	2.0	2.5	1.6	0.0	1.7	0.0	1.8	5.7	2.2	0.0	0.0
⑤学校などの教職員等	6.0	2.5	8.6	11.1	6.8	16.7	12.7	2.9	3.3	3.2	0.0
⑥民生児童委員など地域の人	8.5	8.6	8.2	0.0	1.7	4.8	0.0	4.3	13.3	16.1	22.7
⑦弁護士などの専門家	13.2	16.8	10.3	5.6	13.6	9.5	14.5	15.7	21.1	6.5	6.8
⑧国・県・町の人権相談窓口	25.2	32.0	19.8	27.8	13.6	26.2	27.3	35.7	32.2	21.0	13.6
⑨法テラス、NPO等相談機関	2.2	2.5	2.1	0.0	1.7	0.0	1.8	7.1	3.3	0.0	0.0
⑩インターネット上の友人・知人	0.7	1.5	0.0	5.6	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
⑪自分で処理したい	10.0	8.6	11.1	11.1	5.1	2.4	5.5	8.6	12.2	21.0	11.4
⑫その他	1.1	1.5	0.8	0.0	0.0	0.0	1.8	1.4	0.0	1.6	4.5

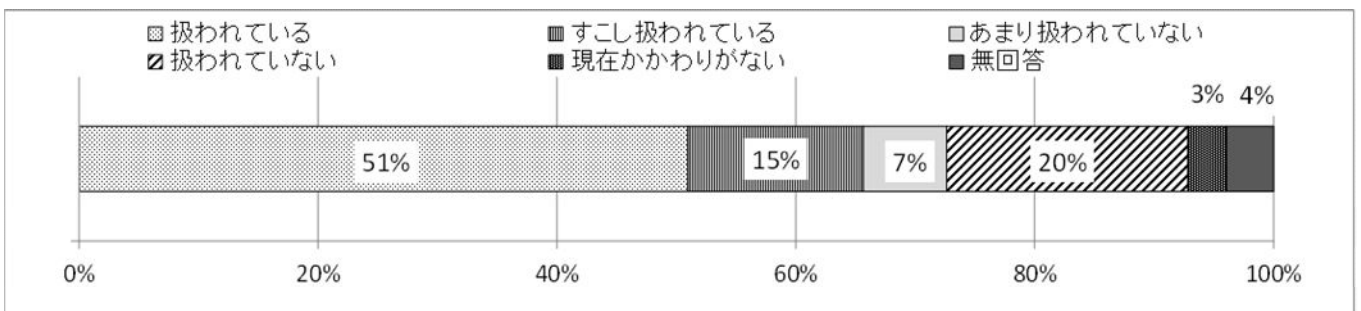
問3 過去5年間の日常生活の中で、あなた自身が他人に対して差別や人権侵害を行ったことがあると思いますか。(1つに○)



「過去5年間で他人に対して差別や人権侵害を行ったことがあるか」については、「ある」「あるかもしれない」と答えた者の割合が19%、県の23%と比べて4ポイント低くなっている。「ない」「ないと思う」と答えた者の割合が69%、県の69%と同じだった。

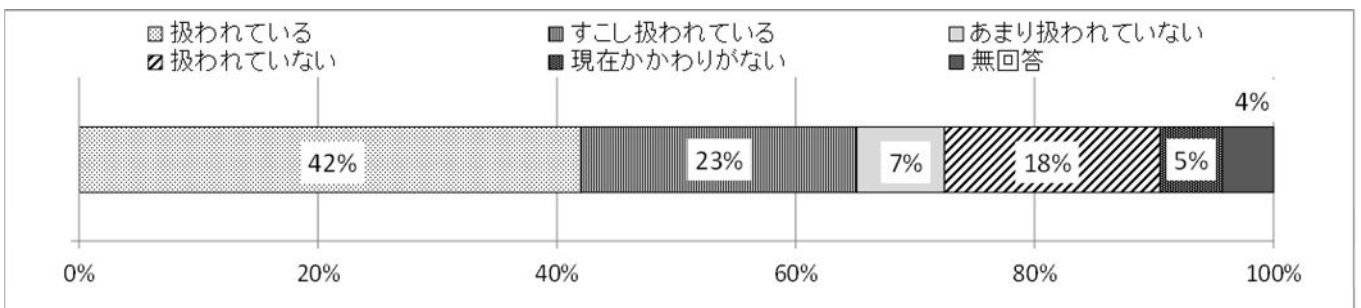
問4 今現在、普段の生活場面における人間関係の中で、あなたは平等に扱われている(差別されたり、特別扱いされていない)と思いますか。次の(1)～(3)のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○)

(1)家庭において



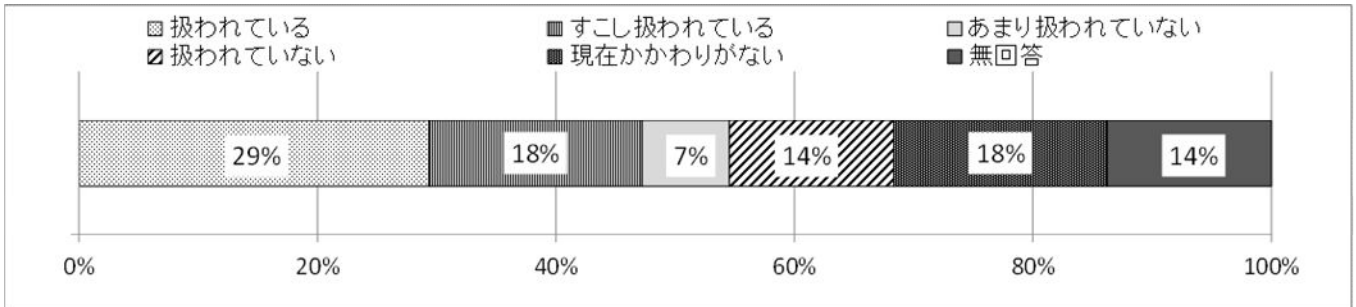
「自分自身が平等に扱われているか」について「家庭において」は、「扱われている」「どちらかといえば扱われていると思う」と答えた者の割合が66%、県の72%と比べて6ポイント低くなっている。「どちらかといえば扱われていないと思う」「扱われていない」と答えた者の割合が27%、県の21%と比べて6ポイント高くなっている。

(2)地域において



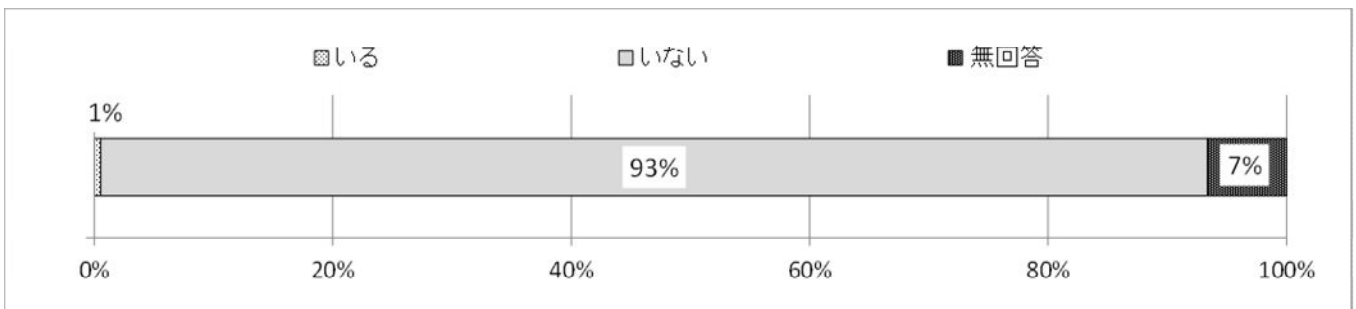
「地域において」は、「扱われている」「どちらかといえば扱われていると思う」と答えた者の割合が65%、県の71%と比べて6ポイント低くなっている。「どちらかといえば扱われていないと思う」「扱われていない」と答えた者の割合が25%、県の18%と比べて7ポイント高くなっている。

### (3)学校または職場において



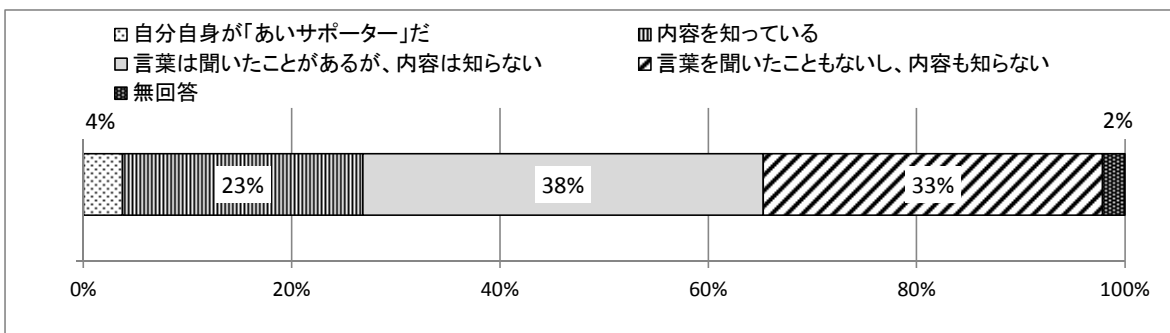
「学校または職場において」は、「扱われている」「どちらかといえば扱われていると思う」と答えた者の割合が47%、県の54%と比べて7ポイント低くなっている。「どちらかといえば扱われていないと思う」「扱われていない」と答えた者の割合が21%、県の20%と比べて1ポイント高くなっている。

問5 あなたの家族や知人で障がいがあることなどの理由で、優生思想による強制的な不妊手術を受けた人がいますか。(1つに○)



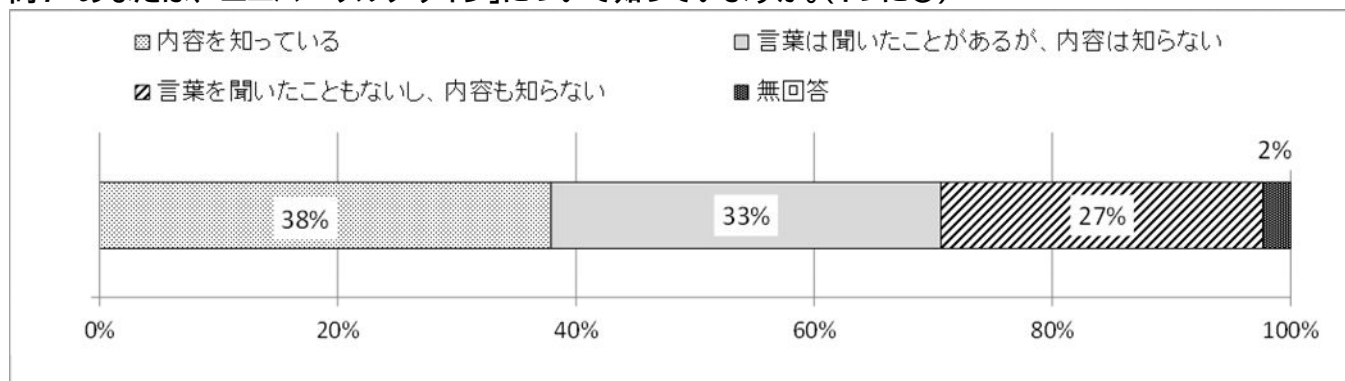
「身の回りで障がいがあること等の理由で、優生思想による強制的な不妊手術を受けた人がいるか」については、「いる」と答えた者の割合が1%、県の1%と同じになっている。「いない」と答えた者の割合が93%、県の97%と比べて4ポイント低くなっている。

問6 あなたは、「あいサポート運動」について知っていますか。(1つに○)



「あいサポート運動の内容を知っているか」については、「自分自身があいサポーターだ」と答えた者の割合が4%(県5%)、「内容を知らない」と答えた者の割合が23%(県23%)、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」と答えた者の割合が38%(県45%)「言葉を聞いたこともないし、内容も知らない」と答えた者の割合が33%(県27%)になっている。

問7 あなたは、「ユニバーサルデザイン」について知っていますか。(1つに○)



「ユニバーサルデザインの内容について知っているか」については、「内容を知っている」と答えた者の割合が38%、県の45%と比べて7ポイント低くなっている。「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」と答えた者の割合が33%、県の28%と比べて5ポイント高くなっている。「言葉を聞いたこともないし、内容も知らない」と答えた者の割合が27%、県の25%と比べて2ポイント高くなっている。

また、町の前回調査と比較してみると、「内容を知っている」と答えた者の割合が(22%→38%)と16ポイントと大幅に増えている。

【参考】前回調査「平成28年5月 伯耆町人権意識調査」との比較

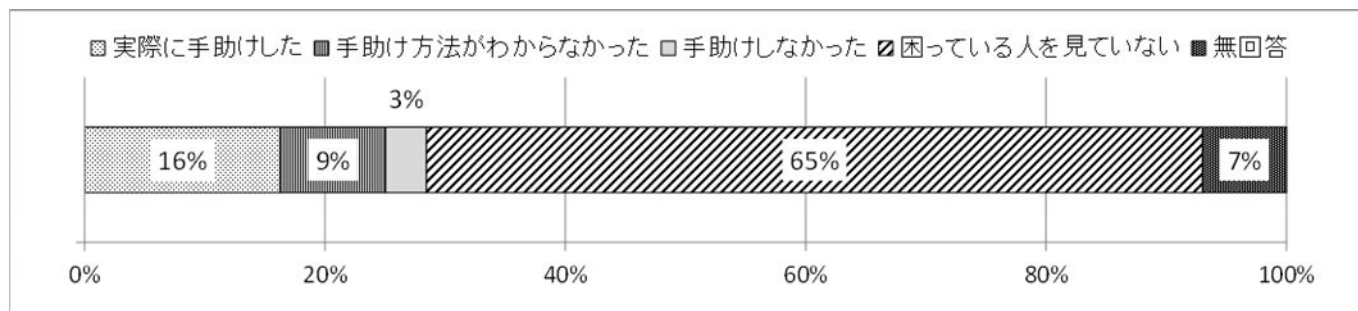
～ 設問文の文言の一部が今回調査と異なっているため、参考としてご覧ください。～

問25 あなたは「ユニバーサルデザイン」について知っていますか。(○は1つだけ)

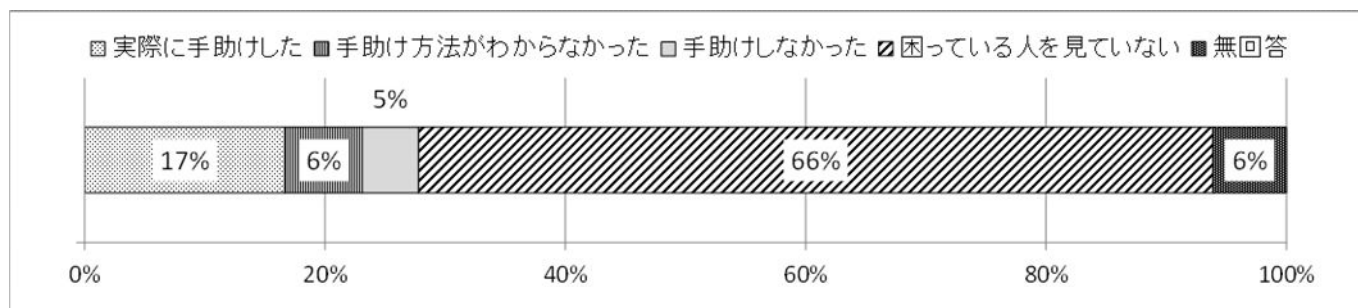
回答割合(%)	凡例: 1位 (赤), 2位 (紫), 3位 (黄) (単位:%)										
	合計			性別		年齢					
	全体	男	女	16~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
①内容・意味についてよく知っている	22.1	24.4	21.0	55.6	40.7	31.0	25.5	38.6	8.9	1.6	2.3
②言葉は聞いたことがあるが、内容、意味についてはよく知らない	40.6	39.1	41.6	27.8	37.3	42.9	41.8	31.4	43.3	48.4	38.6
③まったく知らない	33.3	34.0	32.9	16.7	22.0	26.2	32.7	30.0	43.3	43.5	38.6
不明	4.0	2.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	6.5	20.5

問8 あなたは実際に、障がいのある人や高齢者、妊娠している人などの手助けをした経験がありますか。  
次の(1)～(6)のすべてについてお答えください。(1つに○)

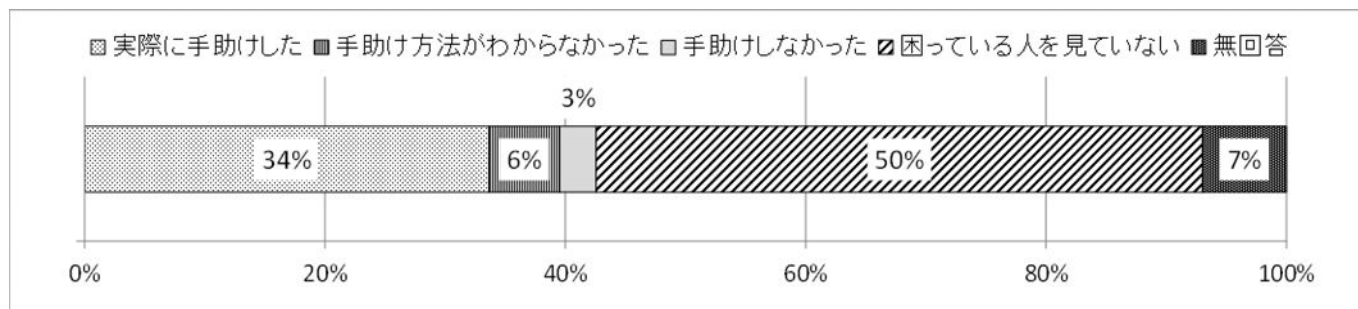
(1)手話や筆談によるコミュニケーション



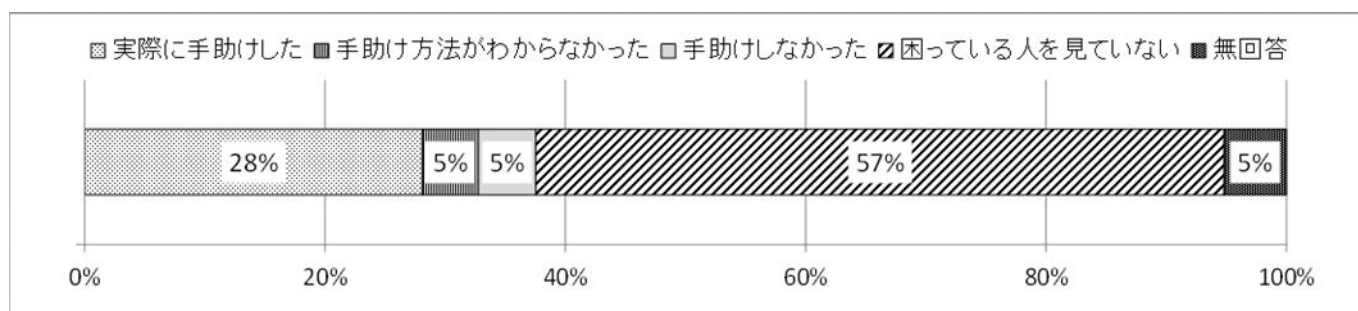
(2)目の不自由な方の誘導



(3)ゆっくり、分かりやすい表現を使って説明をするなどの意思疎通の配慮

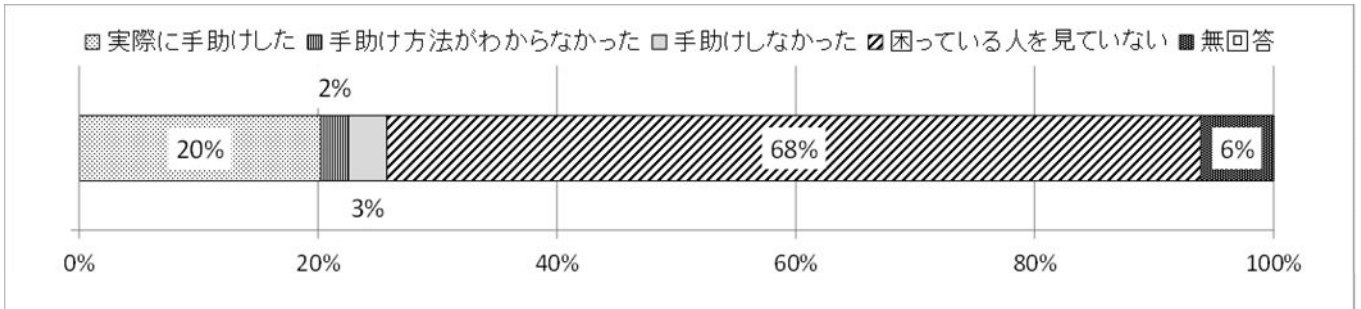


(4)車いす利用者の補助(段差、上り坂など)

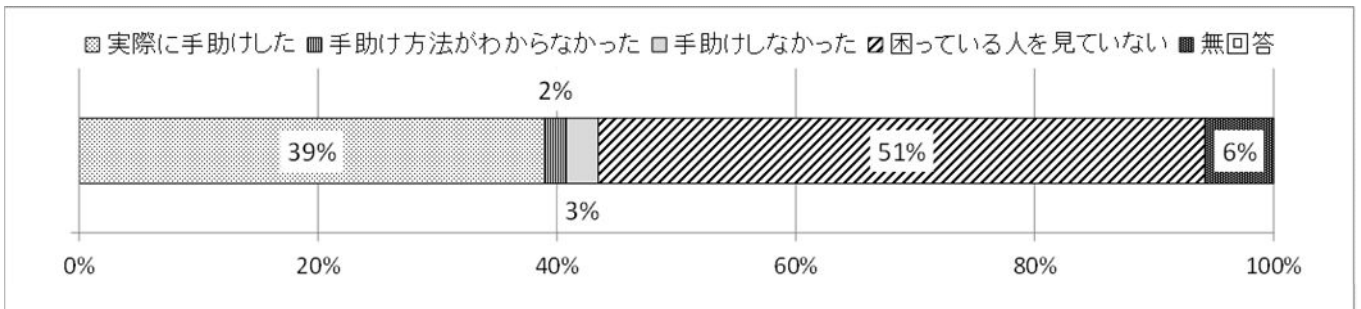




(5)多目的トイレやエレベーターの場所の案内



(6)バスなどの公共交通機関や待合室などで席を譲る



「実際に手助けしたことがあるか」については、「実際に手助けした」と答えた者の割合及び県調査との比較は次のようになっている。

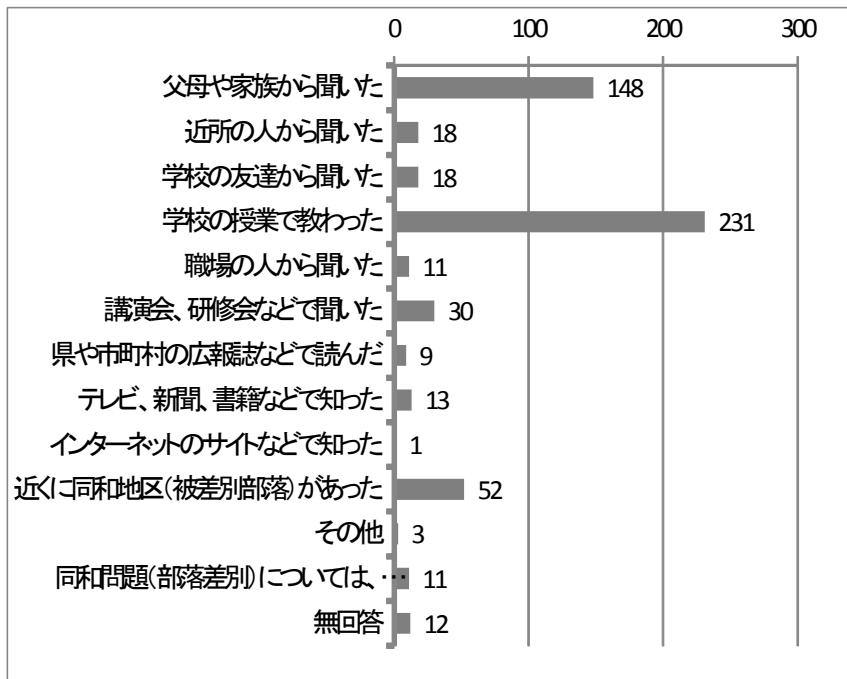
「手話や筆談によるコミュニケーション」を手助けした者の割合は16%で、県の20%と比べて4ポイント低くなっている。「目の不自由な方の誘導」を手助けした者の割合は17%で、県の19%と比べて2ポイント低くなっている。「ゆっくり、わかりやすい表現を使って説明をするなどの意思疎通の配慮」を手助けした者の割合は34%で、県の38%と比べて4ポイント低くなっている。「車いす利用者の補助」を手助けした者の割合は28%で、県の32%と比べて4ポイント低くなっている。「多目的トイレやエレベーターの場所の案内」を手助けした者の割合は20%で、県の23%と比べて3ポイント低くなっている。「バスなどの公共交通機関や待合室などで席を譲る」を手助けした者の割合は39%で、県の44%と比べて5ポイント低くなっている。

また、「困っている人を見かけていない」と答えた者の割合は、いずれの項目においても50%以上と高くなっている。

## 2 同和問題(部落差別)

問9 あなたが同和問題(部落差別)について、はじめて知ったのは、ということがきっかけですか。(1つに○)

(人)



《ベスト5》

- ①学校の授業で教わった41%
- ②父母や家族から聞いた27%
- ③近くに同和地区があった9%
- ④講演会などで聞いた5%
- ⑤近所の人から聞いた3%
- ⑤学校の友達から聞いた3%

\*同和問題については知らない

\*無回答2% 2%

【母数557人】

「同和問題(部落差別)をはじめて知ったきっかけ」については、「学校の授業で教わった」と答えた者の割合が41%で最も多く、県の48%と比べて7ポイント低くなっている。次いで「父母や家族から聞いた」と答えた者の割合が27%、県の21%と比べて6ポイント高くなっている。

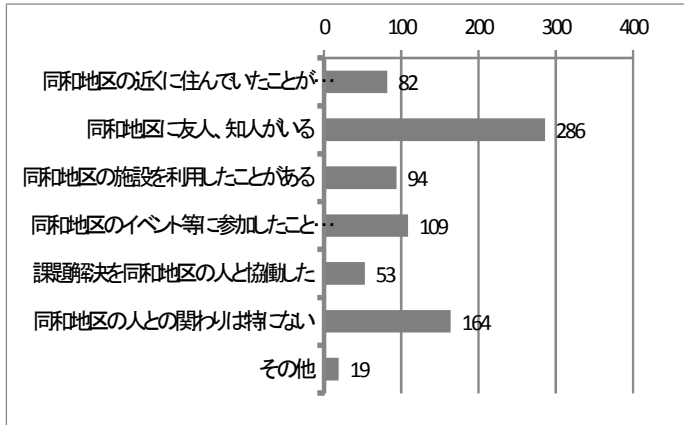
なお、この傾向は、本調査の回答者が、県調査と比べて若年層が少なく高齢層が多くなっているためと考えられる。

問10から問16までは、同和問題(部落差別)を知っている場合のみ、お答えください。

問10 あなたと、同和地区(被差別部落)やその住民の方との関わりについてお答えください。

(〇はいくつでも)

(人)



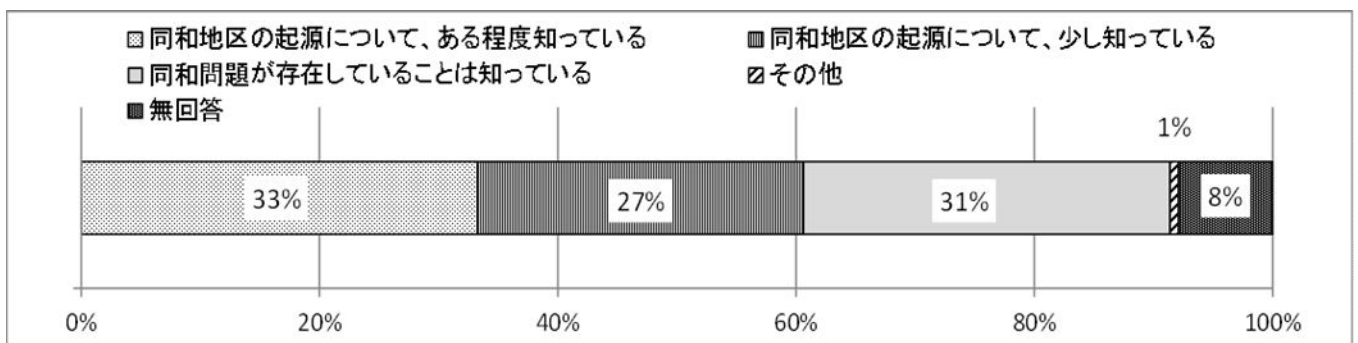
《ベスト5》

- ①同和地区に友人、知人がいる54%
- ②同和地区の人との関わりは特におぼい31%
- ③同和地区のイベントに参加した20%
- ④同和地区の施設を利用した18%
- ⑤同和地区の近くに住んでいた15%

【母数534人、複数回答】

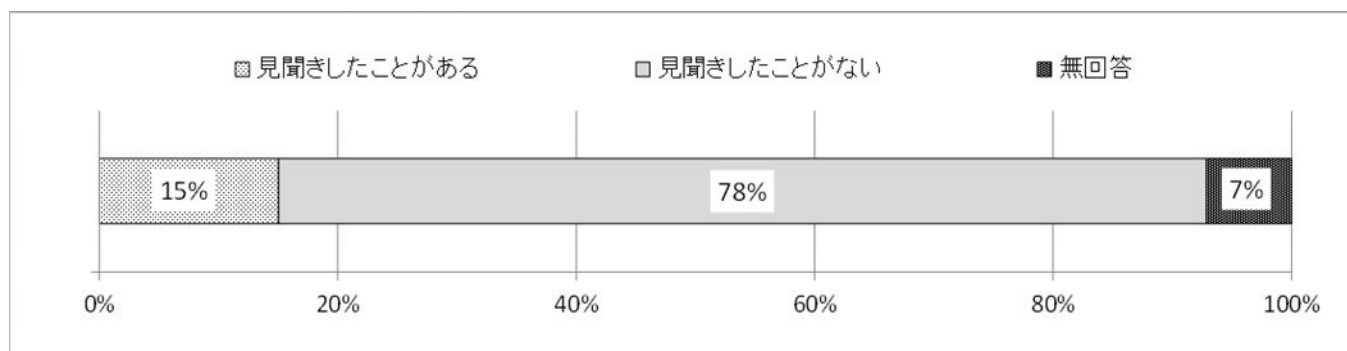
【複数回答】「同和地区(被差別部落)やその住民の方との関わり」については、「同和地区(被差別部落)に友人、知人がいる」と答えた者の割合が54%で最も多く、県の49%と比べて5ポイント高くなっている。以下、「同和地区(被差別部落)の人との関わりは特におぼい」と答えた者の割合が31%(県の35%と比べて4ポイント低い)、「まつりなど、同和地区(被差別部落)の人との交流事業やイベントに参加したことがある」が20%(県の15%と比べて5ポイント高い)、「同和地区(被差別部落)内の施設を利用したことがある」が18%(県の16%と比べて2ポイント高い)の順となっている。

問11 あなたは、同和問題(部落差別)について、どの程度知っていますか。(1つに〇)



「同和問題(部落差別)についてどの程度知っているか」については、「同和地区(被差別部落)の起源や歴史、同和問題(部落差別)の現実(就職・結婚差別、差別発言・落書き、インターネット上の書き込み等)について、ある程度知っている」と答えた者の割合が33%で、県の32%と比べて1ポイント高くなっている。「少し知っている」が27%で、県の31%に比べて4ポイント低くなっている。「存在していることは知っている」が31%で、県の32%と比べて1ポイント低くなっている。

問12 あなたは、過去5年間で同和地区(被差別部落)の人々に対する差別的な発言や行動を直接見聞きしたことはありますか。(1つに○)



「過去5年間で同和地区(被差別部落)の人々に対する差別的な発言や行動を直接見聞きしたことがあるか」については、「見聞きしたことがある」と答えた者の割合が15%で、県の16%より1ポイント低く、町前回調査の19%より4ポイント低くなっている。また、「見聞きしたことがない」と答えた者の割合が78%で、県の82%より4ポイント低く、町前回調査の79%より1ポイント低くなっている。

【参考】前回調査「平成28年5月 伯耆町人権意識調査」との比較

～ 設問文の文言の一部が今回調査と異なっているため、参考としてご覧ください。～

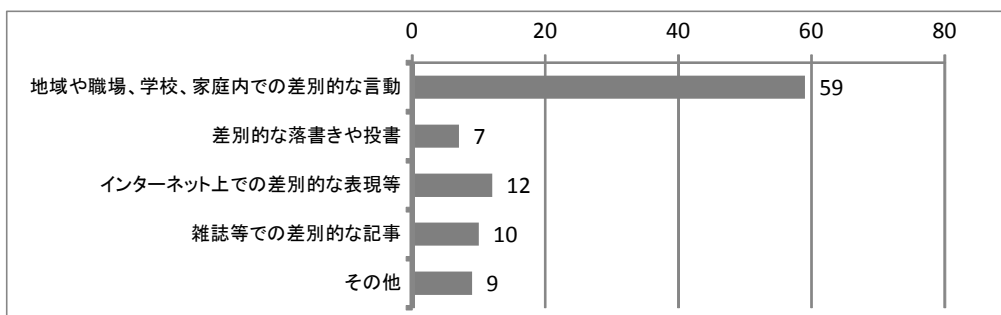
問13-1 あなたは、過去5年間で同和地区の人々に対する差別的な発言や行動を直接見聞きしたことはありますか。(○は1つだけ)

凡例: 1位 2位 3位 (単位:%)

回答割合(%)	合計	性別		年齢							
	全体	男	女	16~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
①見聞きしたことがある	19.0	20.8	18.1	0.0	18.6	26.2	21.8	25.7	16.7	17.7	15.9
②見聞きしたことがない	79.2	78.2	80.2	100.0	81.4	73.8	78.2	74.3	81.1	82.3	75.0
不明	1.8	1.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	9.1

問12-① 見聞きした差別的な発言や行動は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

(人)



《多い順に》

- ①地域や職場、学校、家庭内での差別的な言動70%
- ②インターネット上での差別的な表現等14%
- ③雑誌等での差別的な記事12%
- ④差別的な落書きや投書8%

【母数84人、複数回答】

【複数回答】「見聞きした差別的な発言や行動」については、「地域や職場、学校、家庭内などでの差別的な言動」と答えた者の割合が70%（県の64%より6ポイント高く、町前回調査の74%より4ポイント低い）で最も多く、以下、「インターネット上での差別的な表現等」が14%（県の19%より5ポイント低く、町前回調査の14%と同じ）、「雑誌等での差別的な記事」が12%（県の9%より3ポイント高く、町前回調査の6%より6ポイント高い）の順となっている。

【参考】前回調査「平成28年5月 伯耆町人権意識調査」との比較

～ 設問文の文言の一部が今回調査と異なっているため、参考としてご覧ください。～

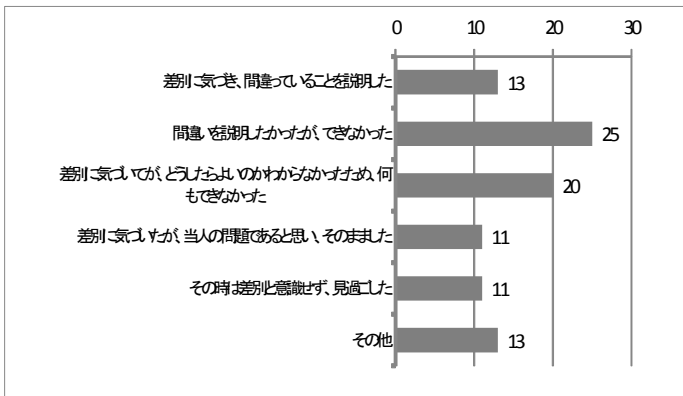
問13-2 問13-1で①を選択された方におたずねします。

その見聞きした差別的な発言や行動は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

回答割合(%)	凡例: 1位 2位 3位 (単位:%)										
	合計	性別		年齢							
		全体	男	女	16~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79
①地域や職場、学校、家庭内などでの差別的な言動	74.1	68.3	79.5		90.9	72.7	83.3	72.2	73.3	72.7	42.9
②建物などへの差別的な落書き	3.5	4.9	2.3		0.0	9.1	8.3	0.0	6.7	0.0	0.0
③インターネット上での差別的な表現等	14.1	17.1	11.4		9.1	18.2	25.0	16.7	6.7	0.0	28.6
④雑誌等での差別的な記事	5.9	7.3	4.5		0.0	0.0	0.0	5.6	13.3	18.2	0.0
⑤その他	8.2	7.3	9.1		9.1	0.0	8.3	5.6	13.3	9.1	14.3

問12-② その時、あなたはどうしましたか。(〇はいくつでも)

(人)



《ベスト3》

- ①間違いを指摘したかったが、できなかった 30%
- ②差別に気づいていたが、どうしたらよいかかわからなかったため、何もできなかった 24%
- ③差別に気づき、間違っていることを説明した 15%

【母数84人、複数回答】

【複数回答】「差別的な発言や行動を見聞きした時の対応」については、「差別に気づき、間違いを説明したかったが、できなかった」30%(県の20%より10ポイント高く、町前回調査の29%より1ポイント高い)、「差別に気づいていたが、どうしたらよいかかわからなかったため、何もできなかった」24%(県の29%より5ポイント低く、町前回調査の9%より15ポイント高い)を合わせて54%となっている。また、「差別に気づいたが、当人の問題であると思い、そのままにした」13%(県の23%より10ポイント低く、町前回調査の22%より9ポイント低い)、「その時は差別として意識せず、見過ごした」13%(県の11%より2ポイント高く、町前回調査の8%より5ポイント高い)を合わせて26%となっている。

「差別に気づき、間違っていることを説明した」は15%(県の15%と同じ、町前回調査の18%より3ポイント低い)にとどまっている。

【参考】前回調査「平成28年5月 伯耆町人権意識調査」との比較

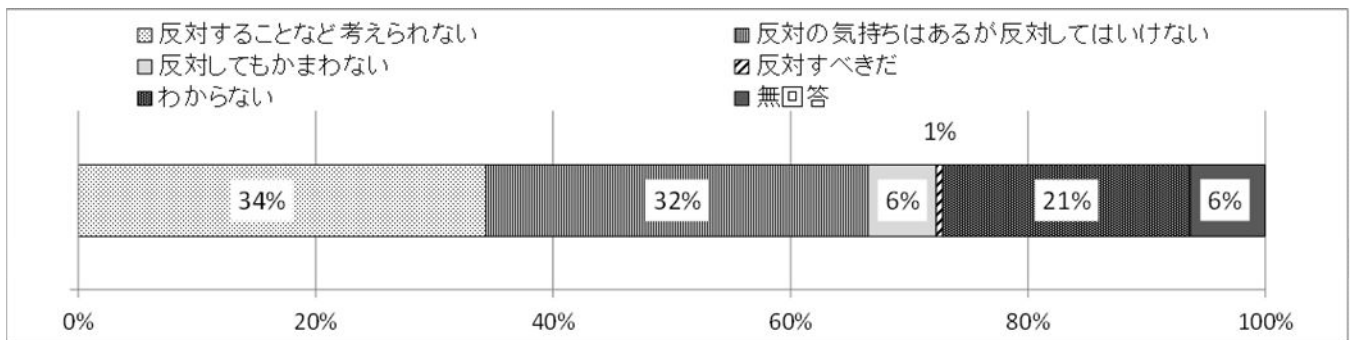
～ 設問文の文言の一部が今回調査と異なっているため、参考としてご覧ください。～

問13-3 問13-1で①を選択された方におたずねします。

その時、あなたはどうしましたか。(〇は1つだけ)

回答割合(%)	凡例: 1位 2位 3位 (単位:%)										
	性別			年齢							
	合計	男	女	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
①差別に気づき、間違っていることを説明した	17.6	9.8	25.0		9.1	18.2	16.7	16.7	20.0	27.3	14.3
②差別に気づき、間違いを説明しなかったが、できなかった	29.4	34.1	25.0		36.4	27.3	50.0	22.2	26.7	27.3	14.3
③差別に気づいたが、何もできなかった	9.4	7.3	11.4		9.1	0.0	0.0	16.7	20.0	0.0	14.3
④差別に気づいたが、当人の問題であると思い、そのままにした	22.4	26.8	18.2		18.2	36.4	16.7	16.7	13.3	18.2	57.1
⑤その時は差別として意識せず、見過ごした	8.2	12.2	4.5		9.1	9.1	8.3	16.7	6.7	0.0	0.0
⑥その他	4.7	0.0	9.1		9.1	0.0	0.0	11.1	6.7	0.0	0.0
不明	8.2	9.8	6.8		9.1	9.1	8.3	0.0	6.7	27.3	0.0

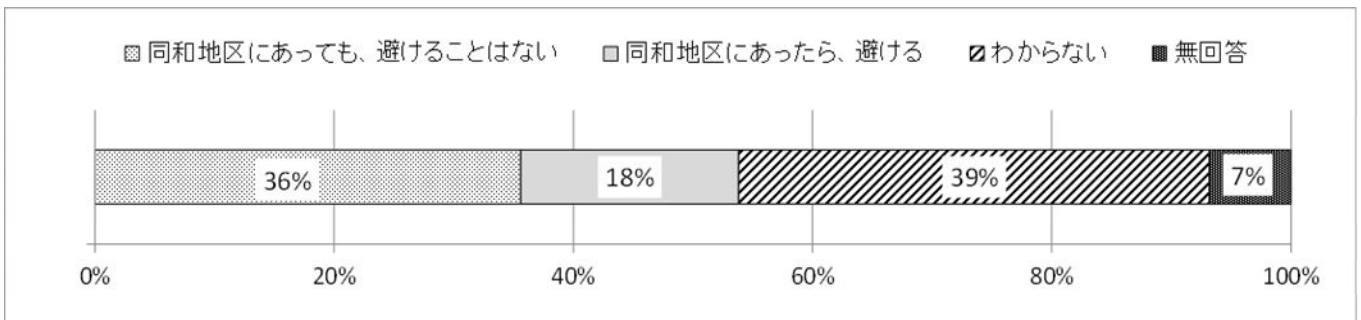
問13 相手が同和地区(被差別部落)出身者であることを理由に結婚に反対することについて、あなたの考えにもっとも近いものはどれですか。(1つに○)



「相手が同和地区出身者であることを理由に結婚に反対すること」については、「反対することなど考えられない」と答えた者の割合が34%で、県の38%より4ポイント低くなっている。「反対の気持ちがあっても反対してはいけない」と答えた者の割合が32%で、県の33%より1ポイント低くなっている。「反対してもかまわない」と答えた者の割合が6%で、県の5%より1ポイント高くなっている。「絶対に反対すべきだ」と答えた者の割合は1%で、県の1%と同じになっている。

なお、「わからない」と答えた者の割合は21%で、県の21%と同じになっている。

問14 あなたが、家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、物件が同和地区(被差別部落)にあった場合、どうだと思いますか。(1つに○)



「住宅を選ぶ際に、物件が同和地区(被差別部落)にあった場合、どうだと思うか」については、「物件が同和地区(被差別部落)にあるという理由で避けることはない」と答えた者の割合が36%で、県の34%と比べて2ポイント高くなっている。「物件が同和地区(被差別部落)にあったら避ける」と答えた者の割合が18%で、県の23%と比べて5ポイント低く、町前回調査の28%と比べて10ポイント低くなっている。

また、「わからない」と答えた者の割合は39%で、県の41%と比べて2ポイント低くなっている。

【参考】前回調査「平成28年5月 伯耆町人権意識調査」との比較

～ 設問文の文言の一部が今回調査と異なっているため、参考としてご覧ください。～

問15 あなたが、家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、物件が同和地区にあった場合、どうだと思いますか。(○は1つだけ)

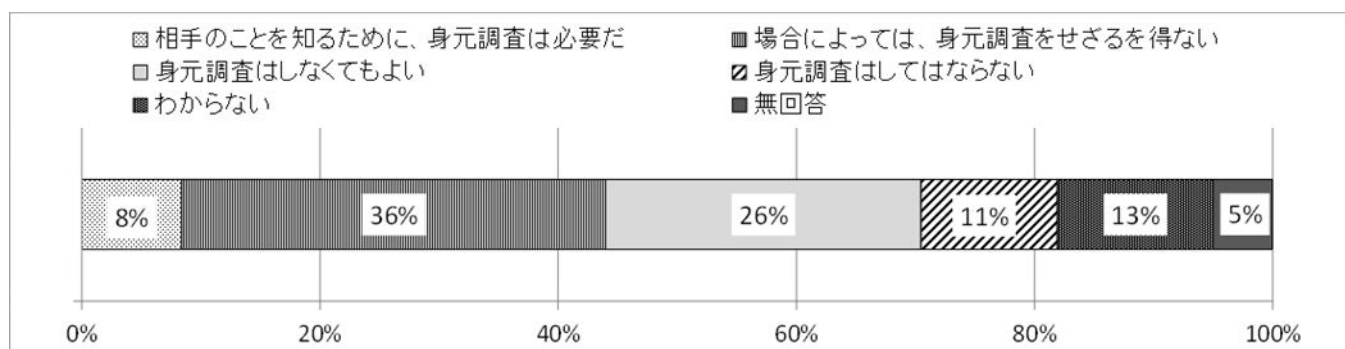
凡例: 1位 (赤), 2位 (紫), 3位 (黄) (単位:%)

回答割合(%)	合計		性別		年齢						
	全体	男	女	16~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
①物件が同和地区にあったら、避ける	28.3	26.4	30.5	22.2	15.3	26.2	32.7	44.3	24.4	32.3	25.0
②物件が同和地区にあっても、条件が合えば、こだわらない	63.4	69.0	58.8	66.7	81.4	64.3	63.5	52.9	64.4	58.1	56.8
③その他	5.4	3.6	7.0	11.1	1.7	9.5	3.6	2.9	6.7	6.5	6.8
不明	2.9	1.0	3.7	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	4.4	3.2	11.4



問15 あなたまたは家族の結婚や就職に際して、身元調査をすることについてどう思いますか。

(1つに○)



「結婚や就職に際して身元調査をすること」については、「相手のことを知るために、身元調査は必要だ」と答えた者の割合が8%で、県の7%と比べて1ポイント高くなっている。「場合によっては、身元調査をせざるを得ないこともある」と答えた者の割合が36%で、県の39%と比べて3ポイント低くなっている。「身元調査はしなくてもよい」と答えた者の割合が26%で、県の33%と比べて7ポイント低くなっている。「身元調査は絶対にしてはならない」と答えた者の割合が11%で、県の8%と比べて3ポイント高くなっている。

また、「わからない」と答えた者の割合は13%で、県の11%と比べて2ポイント高くなっている。

問16 同和問題(部落差別)について、日ごろ感じていることがあれば、自由にお書きください。

～ 回答より一部抜粋して記載 ～

○同和問題をいつまでもテーマにしていることが、区別や差別につながっていると思います。いけないということは、法律でも定められていることなので。

(年代性別不明)

○そこに住んでいるという理由だけで差別を受けるのは、あってはならないと思います。学生の時に習っているところは、過去に差別を受けていたという内容であり、今受けてないならある意味知らない方が、逆に意識する人が少なくなるのではないかなとも思いました。全員が差別はダメという感情になるとは限らないと思ったからです。この内容を人に伝える勇気がないので、書かせていただきました。

(20代/男性)

○同和問題をいつまでも続けることは、しない方が良くと思います。今の若い人に同和問題を教えることは、しなくてよいと思います。

(20代/男性)

○学校の授業で教わったが、「部落差別がいまだにあるのか?」と思っている。見たことないし、聞いたことない。部落差別なんて何の意味があってやってんのか、ムダな事だと思っている。これをやっているのは学のない人。かわいそうな人。(30代/女性)

○なぜ部落差別が始まったのか、その理由を学校で引き続き学んでいく必要がある。正しい知識こそが、解決への一歩となる。今の子供は部落差別に直面することが少ないが、岸本が有地区でなくても、積極的に学習して行って欲しい。

(30代／女性)

○相手が同和地区出身者であるという理由で、差別的な行動をとる人を軽蔑します。だけど、間違いを正すとか、差別をなくすような活動を自分からとることはしないです。

(40代／女性)

○興味がない。関心がない。

(50代／男性)

○川を挟んで同和地区があります(米子市)。普通にそこの公園に行ったり、遊んだりしています。うちの子たちもそうでした。昔(50年前)とは、普通感が大幅に上がったと思います。でも、結婚とかいう話になると、周りの人(特に年上の人)の反応はどうなるか想像できないな。人権関係で、「あなたは どうする」設問は、わからないが多くなるなあ。自分の心がフラフラしているので。

(50代／男性)

○子供の頃や、子供が学校に行っていたときは、話を聞く機会があったけど、今は、耳にすることが全くなかった。現在の実際の事がわかっていないのかもしれない。

(50代／女性)

○心の奥底には、差別的な意識があるかも知れないが、もし自分がその立場になったらとか思うと、非常に悲しい。自分の子供を信じて、今は、結婚を反対しないと思う。差別はばかばかしいと思う。教育が大事ですね。(私達の頃は、学校での同和教育がなかったので、子供の参観日に一緒に勉強しました。歴史を知って、悲しくなりました。)

(60代／女性)

○同和問題については、思ったことを正直に言葉にすることを、一瞬ためらってしまう面があることがある。差別意識はない、なくさないといけないと思っていても、上記の様に思うこと自体、差別意識が根底にあるといえるのかもしれないと、自分自身の気持ちを厳しく見つめたいと思う。同和問題も他の差別も根底は同じ、誰もが辛い気持ちにならない世の中を望みます。

(60代／女性)

○子供が小学校に入学してから、同和教育を学びました。それまでは、大人達に聞いたことを何となく想像するだけでしたが、色々教えて頂き、勉強する事で正しく理解する事ができました。これからも、差別のない社会を作る為に、小学生の内から正しい教育をして頂きたいです。

(60代／女性)

○DV法の施行後、取締りや報道が多いのに比し、部落差別解消推進法施行後の動きが変わらないように思う。人権に優劣があるようで、そのこと自体に問題を感じる。同和問題が自分の事になりにくい理由の一つであるように思う。

(60代／男性)

○同和問題(部落差別)が改善されているのに、わざわざ問題提起する必要はない。同和教育もどうかと思う。日本人は同一である。同和対策事業等で恩恵を受けるのは、どうかと思う。

(70代／男性)

○最近、同和問題に接する機会がなくなっています。就業中は、年に2回程度の職場研修等がありましたが、退職後は、そういったこともありません。

(70代／男性)

○中学生の時はじめて知りました。友達(女性)が、自分から話してくれて、それ以来、同和地区に対するこだわりなくお付き合いをしています。とても親切な方が多いように思います。

(70代／女性)

○各公民館が4カ所ありながら、文化センターが特別にあるのはなぜですか？これは差別ではないでしょうか。疑問に思います。

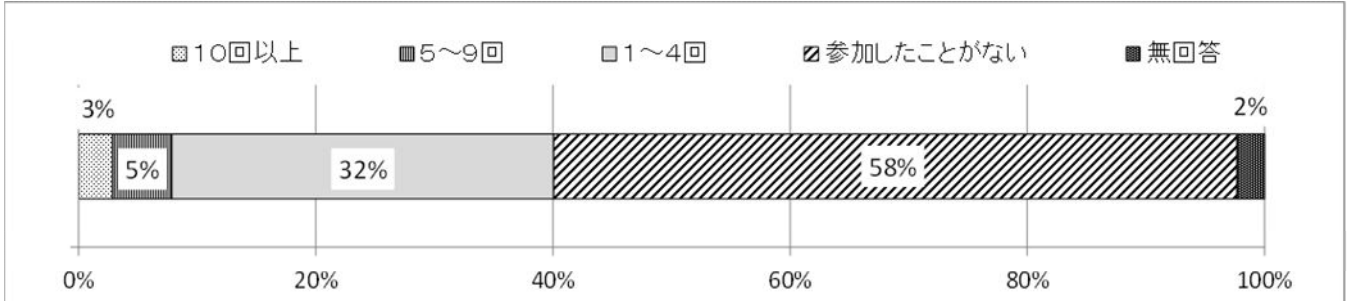
(80代／女性)

○あまり同和、同和と言葉にしなくて、少しそっとしておくことはダメでしょうか。時代も変わっていますのに治らないほど、難しい問題なのだと感じています。

(80代／女性)

### 3 教育・啓発

問17 あなたは、過去5年間に人権に関する講演会や研修会、地域の学習会等に何回参加しましたか。  
(1つに○)



「過去5年間に人権に関する講演会や研修会、地域の学習会等に何回参加したか」については、「参加したことがある(1~10回以上)」と答えた者の割合が40%で、県の47%と比べて7ポイント低く、町前回調査の45%と比べて5ポイント低くなっている。「参加したことがない」と答えた者の割合が58%で、県の52%と比べて6ポイント高く、町前回調査の53%と比べて5ポイント高くなっている。

【参考】前回調査「平成28年5月 伯耆町人権意識調査」との比較

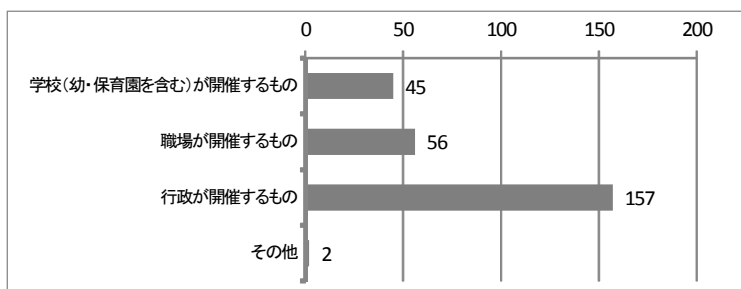
～ 設問文の文言の一部が今回調査と異なっているため、参考としてご覧ください。～

問10-1 あなたは、過去5年間に人権問題に関する講演会や研修会、地域の学習会等に何回参加しましたか。(○は1つだけ)

回答割合(%)	凡例: 1位 2位 3位 (単位:%)										
	合計	性別		年齢							
	全体	男	女	16~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
①10回以上	3.6	4.6	2.9	0.0	1.7	2.4	7.3	7.1	3.3	3.2	0.0
②5~9回	7.8	7.6	8.2	11.1	3.4	11.9	9.1	12.9	5.6	6.5	4.5
③1~4回	33.9	29.4	37.9	55.6	28.8	23.8	30.9	40.0	42.2	32.3	18.2
④参加したことがない	53.1	56.3	50.6	33.3	66.1	61.9	52.7	40.0	46.7	53.2	75.0
不明	1.6	2.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	4.8	2.3

問17-① 参加した講演会や研修会等は次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

(人)



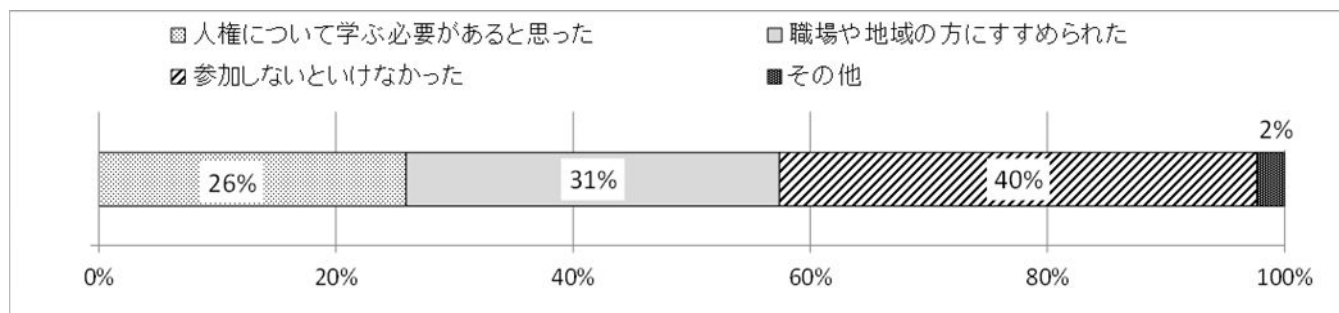
《多い順に》

- ①行政が開催するもの70%
- ②職場が開催するもの25%
- ③学校が開催するもの20%

【母数224人、複数回答】

【複数回答】「参加した講演会や研修会等」については、「行政(国、県、市町村)、公的機関(地域の公民館や人権教育推進協議会も含む)が開催するもの」と答えた者の割合が70%で、県の63%と比べて7ポイント高くなっていて最も高く、以下、「職場が開催するもの」の25%(県の29%と比べて4ポイント低い)、「学校(幼稚園、保育園を含む)が開催するもの」の20%(県の31%と比べて11ポイント低い)の順になっている。

問17-② 参加したきっかけは次のうちどれですか。主なものをお選びください。(1つに○)



「参加したきっかけ」については、「参加しないといけなかった」と答えた者の割合が40%で、県の36%と比べて4ポイント高くなっていて最も多く、以下、「職場や地域のかたに参加するようにすすめられた、さそわれた」の31%(県の29%と比べて2ポイント高い)、「人権について学ぶ必要があると思った」の26%(県の28%と比べて2ポイント低い)の順になっている。

【参考】前回調査「平成28年5月 伯耆町人権意識調査」との比較

～ 設問文の文言の一部が今回調査と異なっているため、参考としてご覧ください。～

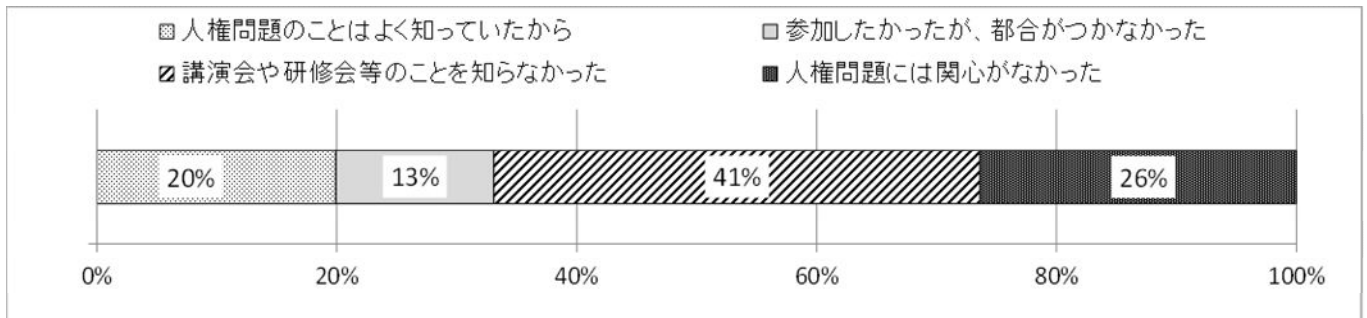
問10-2 問10-1で①～③を選択された方におたずねします。

それはどのような意識で参加しましたか。(○は1つだけ)

回答割合(%)	合計	性別		年齢								
		全体	男	女	16～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80以上
					1位	2位	3位	(単位:%)				
①自らの意思で積極的に	26.1	25.6	26.9	8.3	10.0	12.5	19.2	35.7	26.1	34.6	70.0	
②職場や地域の人に誘われて	35.5	28.0	40.3	8.3	35.0	50.0	30.8	31.0	41.3	38.5	30.0	
③参加割当などで仕方なく	26.6	35.4	20.2	41.7	35.0	25.0	38.5	28.6	23.9	15.4	0.0	
④その他	10.3	9.8	10.9	41.7	20.0	6.3	11.5	4.8	6.5	7.7	0.0	
不明	1.5	1.2	1.7	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	2.2	3.8	0.0	

③については、参加したことがない場合のみ、お答えください。

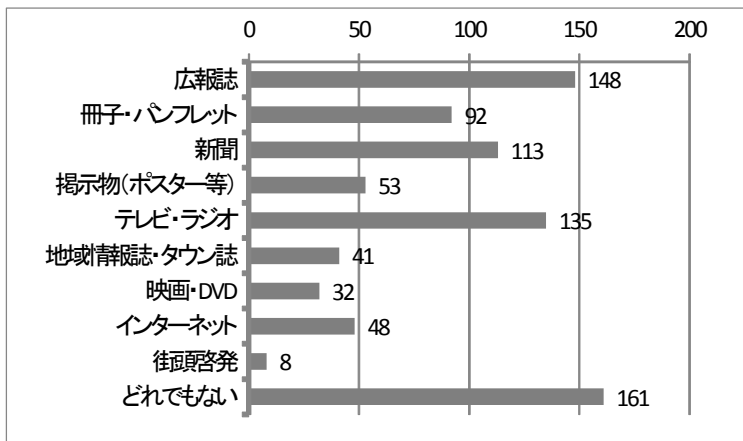
問17-③ 講演会や研修会等に参加しなかった理由を、次の中からもっとも近いものをお選びください。  
(1つに○)



「講演会や研修会等に参加しなかった理由」については、「講演会や研修会等が行われていることを知らなかった」と答えた者の割合が41%で、県の35%と比べて6ポイント高くなって最も多くなっている。以下、「人権問題には関心がなかった」の26%(県の33%と比べて7ポイント低い)、「人権問題のことはすでによく知っていたので参加するまでもなかった」の20%(県の13%と比べて7ポイント高い)、「参加したかったが、忙しくて都合がつかなかった」の13%(県の11%と比べて2ポイント高い)の順となっている。

問18 県や市町村、教育機関等では、講演会や研修会等以外でも人権問題の啓発を行っています。そのうち、あなたが、過去5年間に、人権問題を理解するのに役立つものはどれですか。  
(○はいくつでも)

(人)



《広報ベスト5》

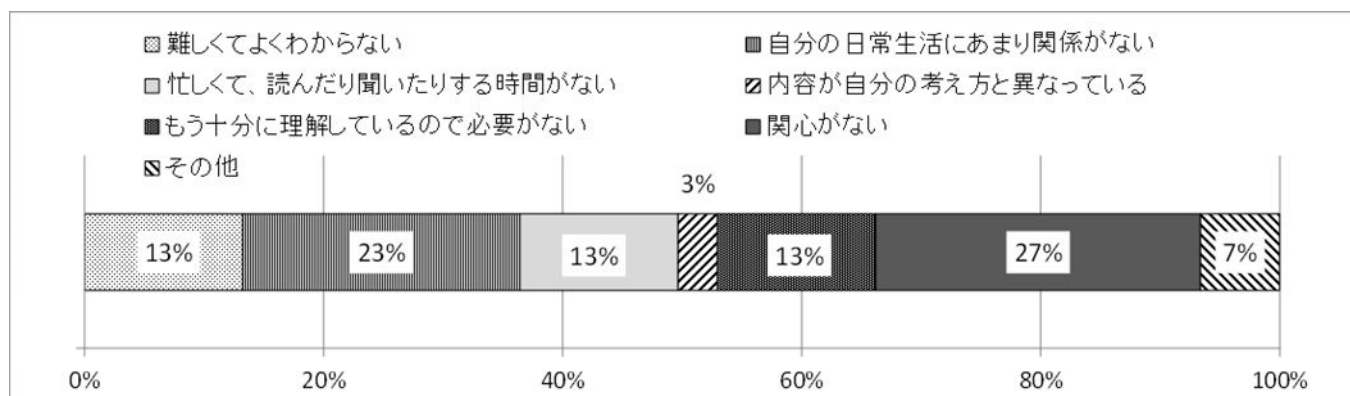
- ①広報誌26%
- ②テレビ・ラジオ24%
- ③新聞20%
- ④冊子・パンフレット16%
- ⑤掲示物9%

\*どれもなし29%

【母数559人、複数回答】

【複数回答】「過去5年間に、人権問題を理解するのに役立つもの」については、「広報誌」と答えた者の割合が26%で、県の27%と比べて1ポイント低くなって最も多く、以下、「テレビ・ラジオ」の24%(県の22%と比べて2ポイント高い)、「新聞」の20%(県の19%と比べて1ポイント高い)の順になっている。また、「どれもなし」と答えた者の割合は29%で、県の28%と比べて1ポイント高くなっている。

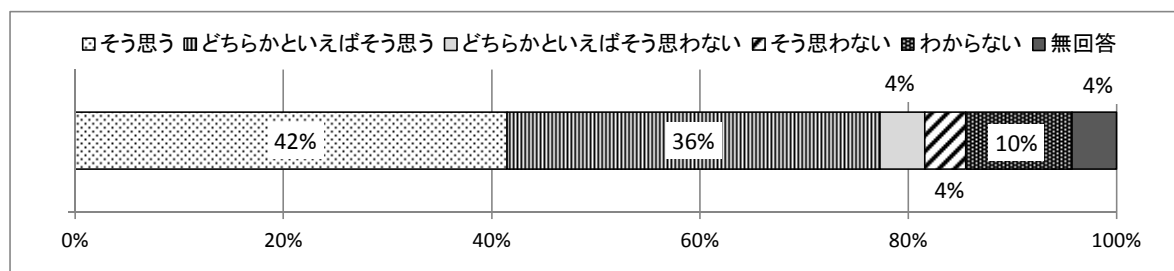
問18-① 問18で「10. どれもない」を選択した方  
その理由をお聞かせください。(1つに○)



「人権問題を理解するのに役立つ啓発はどれもない」と回答した理由については、「関心がない」と答えた者の割合が27%(県の25%と比べて2ポイント高い)と最も多く、以下、「自分の日常生活にあまり関係がない」の23%(県の29%と比べて6ポイント低い)、「難しくてもよくわからない」の13%(県の8%と比べて5ポイント高い)、「忙しくて、読んだり聞いたりする時間がない」の13%(県の14%と比べて1ポイント低い)、「もう十分に理解しているので必要がない」の13%(県の7%と比べて6ポイント高い)の順になっている。

問19 あなたは、人権教育・人権啓発に関して、どのようなお考えをお持ちですか。次の(1)～(8)のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○)

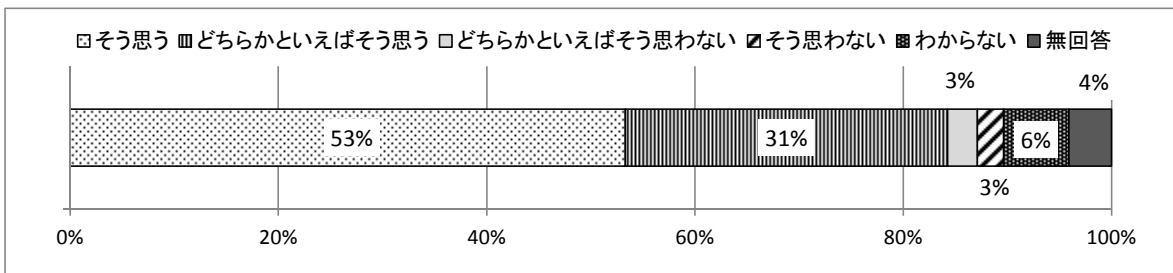
(1)差別や偏見に基づく情報に惑わされないためにも、様々な人権問題について学習しておく必要がある。



「差別や偏見に基づく情報に惑わされないためにも、様々な人権問題について学習しておく必要がある」とについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて78%で、県の80%と比べて2ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせて8%で、県の9%と比べて1ポイント低くなっている。

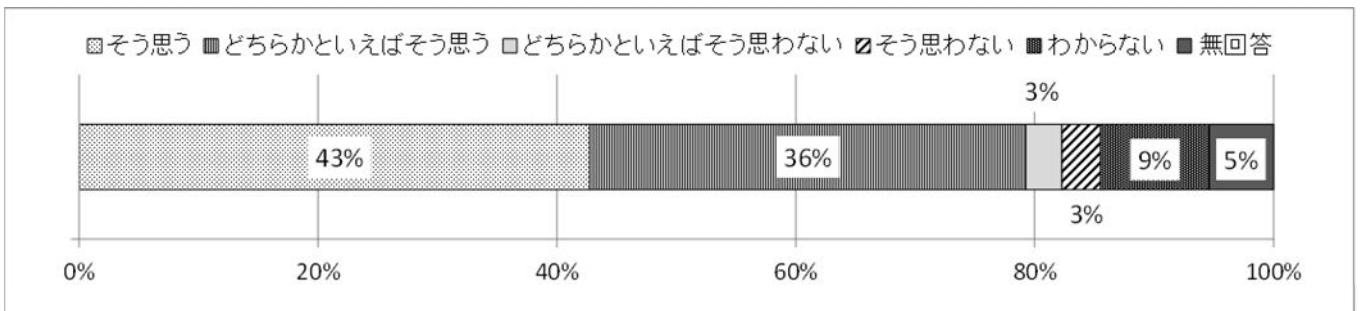


(2)家庭では、親自身が偏見を持たず、差別をしない、許さないということを、子どもたちに示す必要がある。



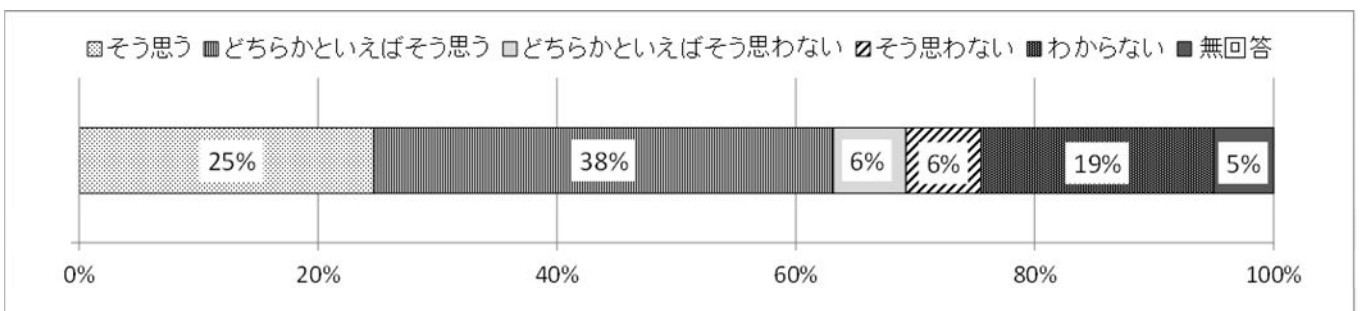
「家庭では、親自身が偏見を持たず、差別をしない、許さないということを、子どもたちに示す必要がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて84%で、県の86%と比べて2ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせて6%で、県の6%と同じになっている。

(3)多様な人々と直接的な関わりを持ち、相手のことを理解する必要がある。



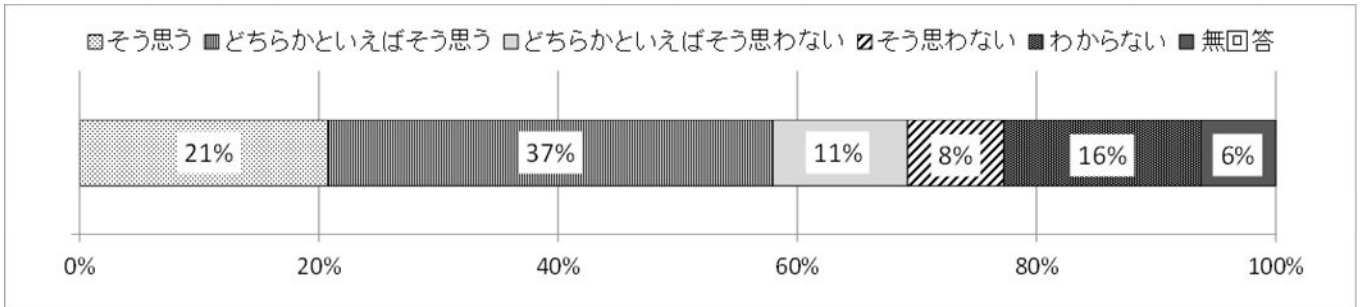
「多様な人々と直接的な関わりを持ち、相手の事を理解する必要がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて79%で、県の83%と比べて4ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」は合わせて6%で、県の5%と比べて1ポイント高くなっている。

(4)NPO等の民間団体による人権尊重に向けた取組を行政が支援する必要がある。



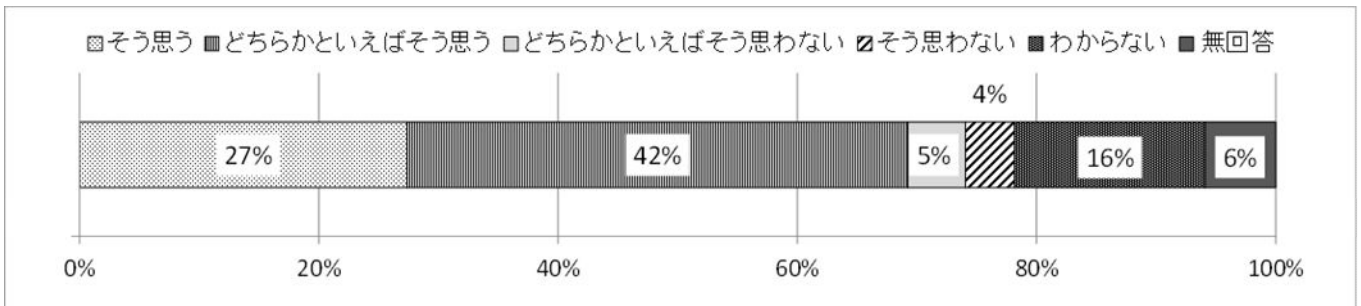
「NPO等の民間団体による人権尊重に向けた取組を行政が支援する必要がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて63%で、県の64%と比べて1ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」は合わせて12%で、県の12%と同じになっている。

(5)職場で人権意識を高めるための啓発活動などを積極的に推進する必要がある。



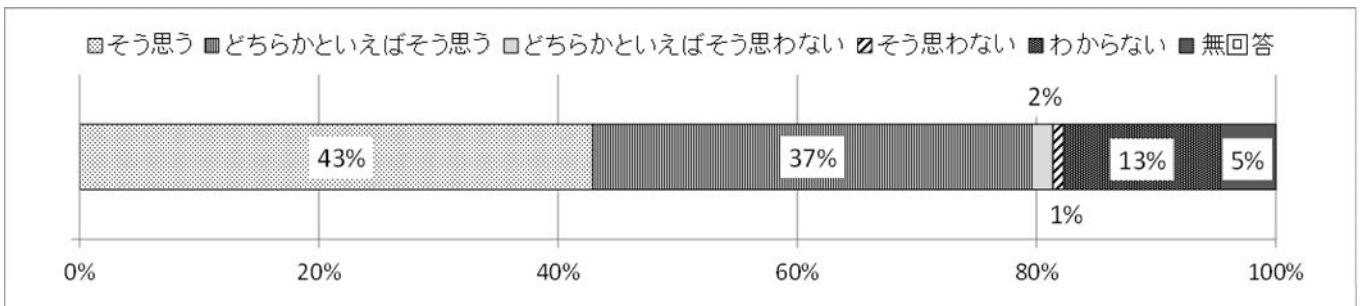
「職場で人権意識を高めるための啓発活動などを積極的に推進する必要がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて58%で、県の61%と比べて3ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」は合わせて19%で、県の20%と比べて1ポイント低くなっている。

(6)人権侵害を行った人などに対する法的な規制や人権が侵害された人の救済・支援を充実するための法整備を促進する必要がある。



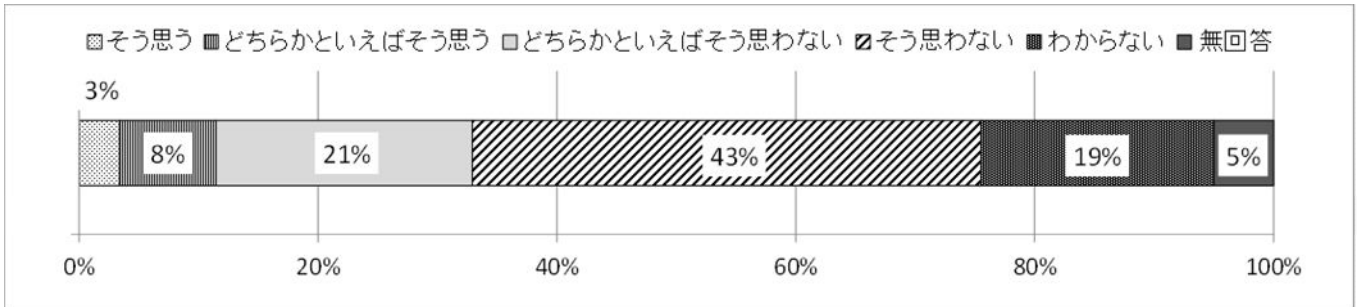
「人権侵害を行った人などに対する法的な規制、人権が侵害された人の救済・支援を充実するための法整備を促進する必要がある」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて69%で、県の70%と比べて1ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」は合わせて9%で、県の10%と比べて1ポイント低くなっている。

(7)世界人権宣言や日本国憲法で保障されている基本的人権の正しい理解が必要である。



「世界人権宣言や日本国憲法で保障されている基本的人権の正しい理解が必要である」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて80%で、県の81%と比べて1ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」は合わせて3%で、県の4%と比べて1ポイント低くなっている。

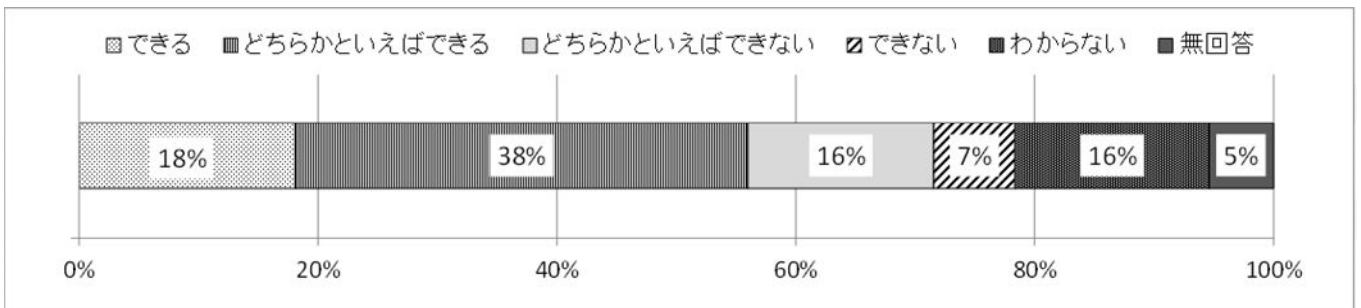
(8)人権は十分に尊重されており、新たな取組は必要ない。



「人権は十分に尊重されており、新たな取組が必要はない」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて11%で、県の13%と比べて2ポイント低くなっている。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」は合わせて64%で、県の67%と比べて3ポイント低くなっている。

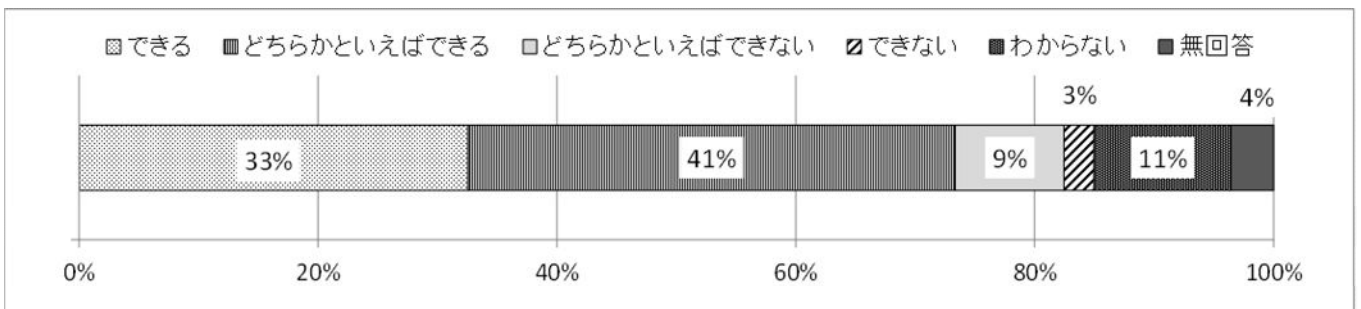
問20 あなたは次のような行動をとることができますか。次の(1)～(7)のすべてについてお答えください。(それぞれ1つに○)

(1)セクハラの場合に居合わせたとき、やめるように注意することができる。



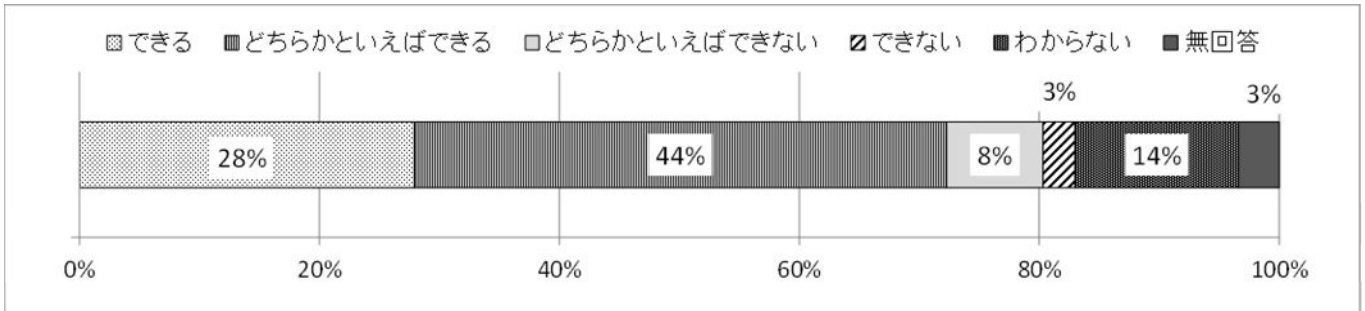
「セクハラの場合に居合わせたとき、やめるように注意することができる」については、「できる」「どちらかといえばできる」を合わせて56%で、県の54%と比べて2ポイント高くなっている。「どちらかといえばできない」「できない」を合わせて23%で、県の24%と比べて1ポイント低くなっている。

(2)子どものいじめ、体罰、虐待などに気づいたとき、関係機関に通報することができる。



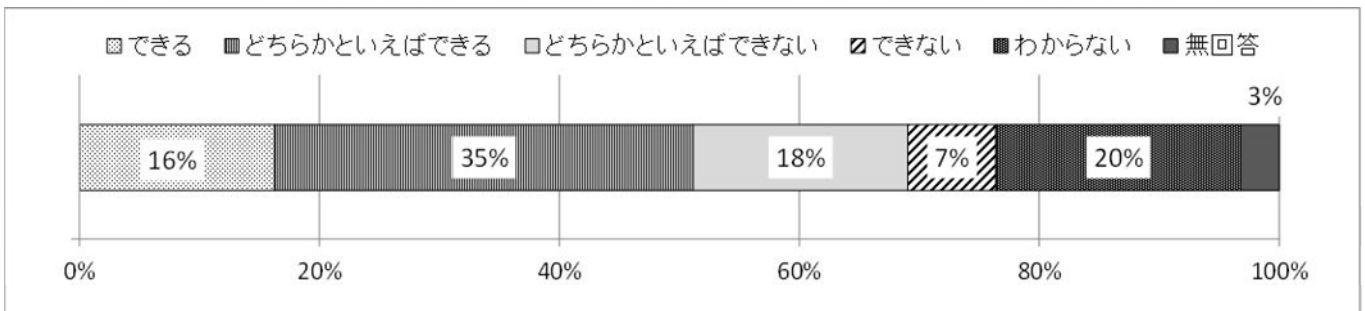
「子どものいじめ、体罰、虐待などに気づいたとき、関係機関に通報することができる」については、「できる」「どちらかといえばできる」を合わせて74%で、県の72%と比べて2ポイント高くなっている。「どちらかといえばできない」「できない」を合わせて12%で、県の13%と比べて1ポイント低くなっている。

(3)災害時に、地域の高齢者や障がいのある人の避難についても気を配ることができる。



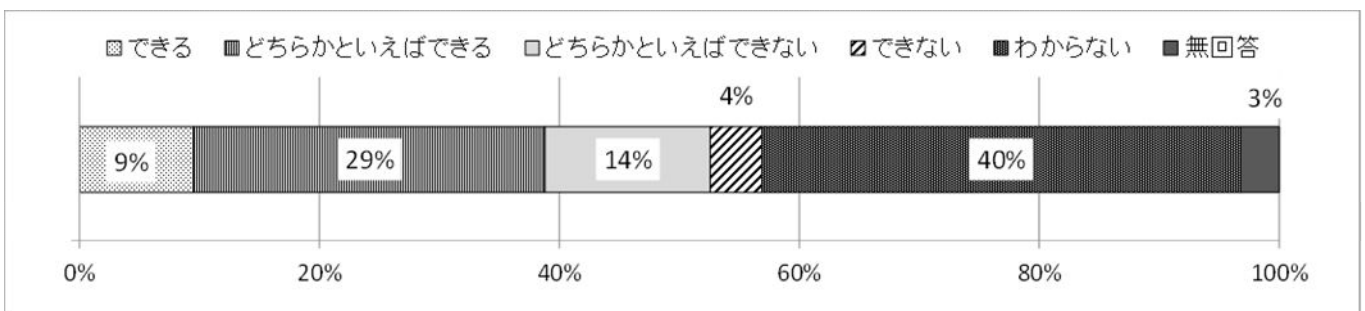
「災害時に、地域の高齢者や障がいのある人の避難についても気を配ることができる」については、「できる」「どちらかといえばできる」を合わせて72%で、県の67%と比べて5ポイント高くなっている。「どちらかといえばできない」「できない」を合わせて11%で、県の15%と比べて4ポイント低くなっている。

(4)地域で暮らす外国人と積極的にコミュニケーションをとったり、お互いの文化を理解し合う努力をすることができる。



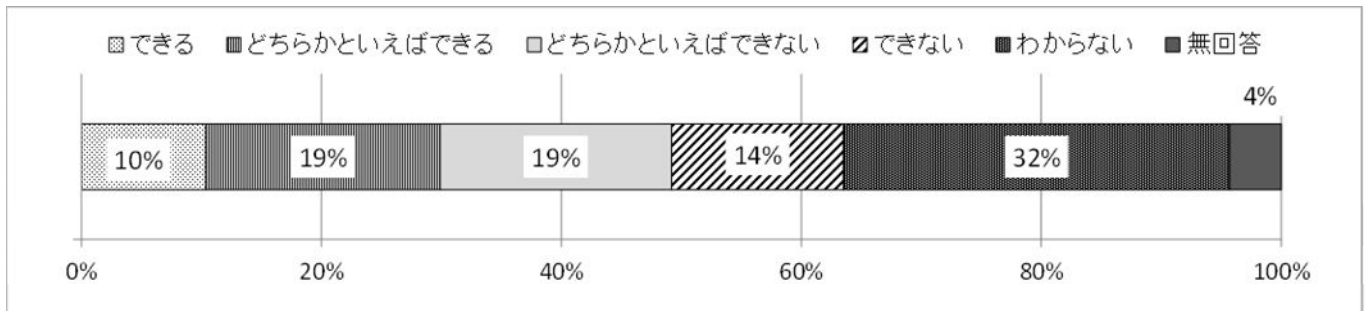
「地域で暮らす外国人と積極的にコミュニケーションをとったり、お互いの文化を理解し合う努力をすることができる」については、「できる」「どちらかといえばできる」を合わせて51%で、県の48%と比べて3ポイント高くなっている。「どちらかといえばできない」「できない」を合わせて25%で、県の26%と比べて1ポイント低くなっている。

(5)近所に刑を終えて出所した人がいたとき、地域の仲間として迎えることができる。



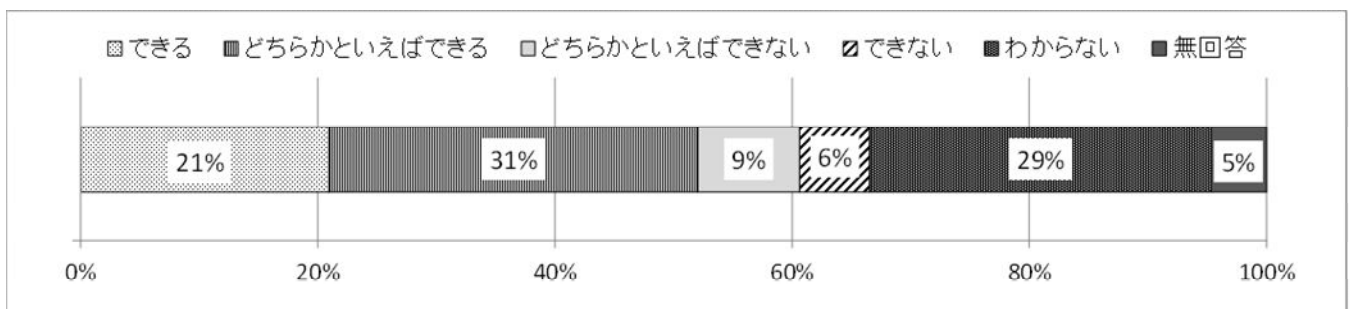
「近所に刑を終えて出所した人がいたとき、地域の仲間として迎えることができる」については、「できる」「どちらかといえばできる」を合わせて38%で、県の33%と比べて5ポイント高くなっている。「どちらかといえばできない」「できない」を合わせて18%で、県の23%と比べて5ポイント低くなっている。

(6) インターネットの掲示板などで差別書き込みを見つけたとき、関係機関に通報することができる。



「インターネットの掲示板などで差別書き込みを見つけたとき、関係機関に通報することができる」については、「できる」「どちらかといえばできる」を合わせて29%で、県の29%と同じになっている。「どちらかといえばできない」「できない」を合わせて33%で、県の38%と比べて5ポイント低くなっている。

(7) 身近な人から性的マイノリティであると告白(カミングアウト)を受けたとき、共感したり、支援する意思を伝えることができる。



「身近な人から性的マイノリティであると告白(カミングアウト)を受けたとき、共感したり、支援する意思を伝えることができる」については、「できる」「どちらかといえばできる」を合わせて52%で、県の53%と比べて1ポイント低くなっている。「どちらかといえばできない」「できない」を合わせて15%で、県の16%と比べて1ポイント低くなっている。

また、「わからない」「無回答」を合わせて34%で、県の31%と比べて3ポイント高くなっている。

## 4 自由記述

人権に関する困りごと、日ごろ感じていること、また、行政に対するご意見、ご要望があれば、自由にお書きください。

(キーワード:人権教育・啓発、性別、障がい、子ども、高齢者、外国人、病気、刑を終えて出所、犯罪被害者等、性的マイノリティ、生活困難者、被災者、アイヌ、ひきこもり など)

～ 回答より一部抜粋して記載 ～

○人権的な教育を受けてきた若い世代より、中高年の方が、偏見や差別発言が多いと感じます。人権的な配慮がなく、地域の人たちの噂話を平気でされる姿が残念です。チラシやポスターでは、そういった方の心に届きません。楽しいイベントと一緒に啓発のミニ講座を組むなど、参加型で自分の立場から人権について考えられる機会があると、実践的な学びになるのではないのでしょうか。まずは自分が、「差別をしている」ということに気づくことからだと思います。今後の取り組みに期待しています。

(年代性別不明)

○行政は、障がいの人等に対して、事務的に接している感じがします。もう少し相手のことを分かって欲しい。その場で終わりの感じがします。支援者をお願いしますという感じがします。

(年代性別不明)

○人権教育は、小学生、中学生のうちをしっかり勉強しておくべきだなと思いました。中途半端な知識だと、新たな偏見が出てくると思うので、しっかり内容深く勉強していくことが大事ななと思いました。中途半端になると、むしろ知らない方が良いのかなと思うことも出てくるので、教育するなら、しっかり学んでいくのが重要ではないかなと思いました。

(20代/男性)

○ひまわりセミナー等での人権教育の講演を、Youtube等のネット動画で見えるようにしてほしい。子どもへの人権教育のために、家庭でもネット経由で見える動画教材を整備してもらえると、大変ありがたいです。

(30代/男性)

○インターネット上で実在の名称を上げて(個人名など)悪口などを書いているサイトがあったりするので、取り締まり等した方がよいのではと思う。

(30代/女性)

○過剰に知識を得ることで、逆に差別になることもあると思う。子どもたちへの人権教育は、やりすぎ注意。

(30代/女性)

○「刑を終えて出所」について、刑務所に入らなければいけない犯罪を起こす前に、自分自身にブレーキをかけることができなかった。犯罪を起こしてしまった罪を深く反省したとしても、再犯するのではないか。一度人のルールを超えてしまうと、法を破ることが容易くできるのではないか。自分の家族や知り合いが、巻き込まれたりはしないか考えてしまう。

(30代/女性)

○同和問題をはじめとした、現在、教育機関において広く周知しようとしていることだけでなく、パワハラやLGBTなど今後の日本、地域社会において大きな弊害になりかねないものにもしっかりと教育や広報、そして、法整備を行うべきだと思います。コロナ対策によって、いかに「スピード」と「情報の整理」が大事だったか実感したと思います。どうかよろしく願い致します。

(30代/男性)

○刑を終え出所した人に対して、少なからず差別心があるのは、子供・家を守るためならしかたない。人権で困ったときに、相談できる場所を作ってほしい。もしあるなら、わかりやすくしてほしい。とにかく、子供を守ってほしい。子供がすぐ相談できる環境を。

(30代/女性)

○病気(特に心の)や、性的マイノリティ、ひきこもりなど、最近になってメディアで取り上げられるようになった事について、世代間で考え方に大きな違いがあるように思います。遠い所の話ではなく、都会だけでなく、身近な所にも理解を必要としている人はいると考える必要があるように思います。

(30代/女性)

○今のところ困り感はないが、もし人権に関することで通報？、相談したくなったら、どこに電話するのかよく分からない。

(30代/女性)

○障がいの子供や、障がいではないけど境界線の子供が増えているのではないかと思う。周りで助け合いながら支援をしていくべきだと思います。

(40代/女性)

○国と民間団体が連携し、専門家等による社会(団体)への啓発を活発にし、各人の意識を向上させるとともに、環境を整えることが重要である。現在でも、被差別部落のリスト(地名)が、企業の人事担当などを対象に売買されるという事件が度々起っている現状である。この原因の一つとして、日本人特有の他人からのイメージを第一とし、集団に同調することを重要視するという気質にある。これでは個々の意見が反映されないため、考え方が偏り、忌避意識の集合体となり、いじめや差別に発展してしまう。

(40代/男性)

○地域で研修会等がありますが、人が集まるのが困難な状況です。ZoomやTV等で、時間を気にせず自由に参加できるような形での研修を希望します。

(50代/女性)

○行政が人権について考えていることは素晴らしいと思います。このアンケートをどう生かすか、これから大変になってくるかと思います。人権に関しては、家庭(特に親)の影響力が大きいと思われます。幼少時に植え付けられてしまった感覚を変えることは、本人が頭で分かっているても難しいかなと。役場からこのようなアンケートをいただき、協力させていただき、今後は楽しみです。何事にも「あたたかい」行政を期待しています。ありがとうございました。

(60代/女性)

○人権問題は永遠の課題であるのかなと感じます。個々に、又、家族、身近な人同士で「これって、どうなのかな・・・?」と課題意識を持って考え、語り合うことが大切なのではないでしょうか。

(60代/女性)

○本アンケート結果に関わらず、人権を守る為の強い指導や、救済・支援が必要だと思います。そうしないと、本町の人権レベルが上がらないと思います。

(60代/男性)

○自分は何もわからないと思った。アンケートを読んで、こんな色々な事があるんだなと思った。本当に勉強になりました。

(60代/女性)

○人権については、一昔前に比べ、領域が広がっており、様々な人権に対して理解することは難しいように思います。身近なテーマに絞った取り組みが必要だと感じます。(例、障がい、生活困難者といった人権について)

(70代/男性)

○すべての元は、家庭にあるように思う。親の世代がしっかり学習しておく必要がある。子供に対して自信を持って意見できるようにしたいものだと考える。

(70代/男性)

○町の職員さんも、交通教育や研修会など勉強不足で、よく差別発言をされる出会いがあり、気になることがある。人権等、接し方ももっともっと研修し身に付けて、あらゆる場面で対応向上を願います。

(70代/男性)

○人権の中でも、種類によっては、行政が対応して過ごしやすい世の中になっていると思います。でも、新しい人権(性的マイノリティ等)は、まだ対応が不十分な所もあると思うので、そのあたりに力を入れていただけたらと思います。(80代/女性)



## IV 調査結果の分析

### 1 分析にあたって

今回の調査は、県の調査(令和2年5月実施)と比較検討するため、調査項目を県の項目に合わせて実施した。したがって、町の前回調査(平成28年5月実施)項目を大幅に変更することになった。

今回の調査結果については、主に県の調査結果(項目によっては町の前回調査結果)と比較しながら、本町における差別等の実態や人権意識、今後の啓発等の取組の課題について明らかにしていきたい。

### 2 差別等の実態について

- 「過去5年間で、差別や人権侵害を受けたと思ったことがあるか」(問2)について、「よくある」「たまにある」と回答した割合は12%(県16%、町前回調査13%)で、「差別待遇(不平等・不利益な取り扱い)」や「職場での嫌がらせやいじめ」、「インターネットへの不適切な書き込み」など、日常生活の中で依然として様々な人権侵害が発生している。
- 「普段の生活場面における人間関係の中で、平等に扱われているか」(問4)で「平等に扱われていない」「どちらかといえば扱われていないと思う」と回答した割合は、「家庭において」27%(県21%)、「地域において」25%(県18%)、「学校または職場において」21%(県20%)となっている。直接的な人権侵害のほかにも、家庭や地域、学校や職場の中で「平等に扱われていない」と感じている人が多くいる。
- 「過去5年間で同和地区(被差別部落)の人々に対する差別的な発言や行動を直接見聞きしたことがあるか」(問12)に「見聞きしたことがある」と回答した割合は15%(県16%、町前回調査19%)で、「同和地区(被差別部落)の人々に対する差別的な言動」など、依然として部落差別が存在している。

### 3 人権に関する考えや認識について

- 人権に関する考えについての設問(問1)の中で、「さまざまな人権問題が話題になるが、自分とは関係ないことだ」について、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」※1(望ましい回答)の割合は75%(県77%)と、多くの人が、人権問題は自分に関わる問題であるとの認識を持っている。
- 「子どもの問題を家庭だけの責任にするのではなく、公的な支援も必要だ」という考えについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」(望ましい回答)の割合が83%(県83%)、「日本で暮らす外国人が、母国の言葉や文化を大切にすることを尊重すべきだ」という考えについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」(望ましい回答)の割合が79%(県79%)と、問題解決のために必要なことに関しても、多くの人が理解を示している。
- 「差別だ、差別だと騒ぎすぎる人が多い」という考えについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」※2(望ましくない回答)の割合が41%(県36%)、「差別される人にもそれだけの理由がある」という考えについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」(望ましくない回答)の割合が27%(県25%)あり、「差別される人にもそれだけの理由がある」など「差別を受ける人」に対する偏見を持っている人が多くいる。

※1(望ましい回答) …人権感覚が健全に働いている、人権問題を正しく認識している回答

※2(望ましくない回答) …人権感覚が健全に働いていない、人権問題を正しく認識していない回答

【以上は、鳥取県人権意識調査結果報告書(令和3年3月)より引用】

- 「子育て中の女性に、出張が必要な仕事を担当させるべきではない」(問1-(4))、「保護者が子どものしつけのために、叩いたり怒鳴ったりすることは、ある程度は仕方がない」(問1-(7))、「外国人が増えると治安が悪くなる」(問1-(10))、「ハンセン病元患者に対して、宿泊施設、店舗等への入店や利用を拒否することがあってはならない」(問1-(12))については、(望ましい回答)の割合が、県の結果に比べてそれぞれ5ポイント高くなっている。具体的な人権問題に関する認識については、「女性」、「子ども」、「外国人」、「ハンセン病」などで高い傾向が出ており、理解が進んできていると思われる。
- 「災害時に、地域の高齢者や障がいのある人の避難についても気を配ることができる」(問20-(3))について、「できる」「どちらかといえばできる」を合わせて72%で、県の67%と比べて5ポイント高くなっている。また、「近所に刑を終えて出所した人がいたとき、地域の仲間として迎えることができる」(問20-(5))については、「できる」「どちらかといえばできる」を合わせて38%で、県の33%と比べて5ポイント高くなっている。災害などの緊急時や近所づきあいにおいては、人権に配慮した態度や行動がとれる実践力が高まっていると考えられる。

#### 4 同和問題(部落差別)に関する認識について

- 「同和問題(部落差別)についてどの程度知っているか」(問11)については、「同和地区(被差別部落)の起源や歴史、同和問題(部落差別)の現実(就職・結婚差別、差別発言・落書き、インターネット上の書き込み等)」を「ある程度知っている」と回答した割合は33%(県32%)に過ぎず、「少し知っている」や「同和地区(被差別部落)が存在していることは知っている」と回答した割合の方が圧倒的に高くなっており、同和問題(部落差別)についての正しい認識が普及しているとは必ずしも言えない。
- 「結婚差別」(問13)、「土地差別」(問14)、「身元調査」(問15)の回答の関係をみると、同和問題(部落差別)の現実や身元調査の問題性などが必ずしも正しく理解されているとは言えない。
- 同和問題(部落差別)についての自由記述の中には、同和問題や同和教育について多様な意見が述べられている。

#### 5 人権教育・啓発の取組について

- 「過去5年間に人権に関する講演会や研修会、地域の学習会等に何回参加したか」(問17)についての回答は、「参加したことがある(1~10回以上)」と答えた者の割合が40%(県47%、町前回調査45%)、「参加したことがない」と答えた者の割合が58%(県52%、町前回調査53%)になっている。講演会や研修会等へ「参加したことがある」よりも「参加したことがない」人の方が多くいる。
- 「講演会や研修会等に参加しなかった理由」(問17-③)については、「講演会や研修会等が行われていることを知らなかった」が41%(県35%)と最も多く、講演会や研修会等についての広報や周知方法に課題がみられる。以下、「人権問題には関心がなかった」26%(県33%)、「人権問題のことはすでによく知っていたので参加するまでもなかった」20%(県13%)、「参加したかったが、忙しくて都合がつかなかった」13%(県11%)の順となっている。人権教育や啓発の内容や方法にも課題がみられる。
- 「人権問題を理解するのに役立つもの」(問18)については、「広報誌」が26%(県27%)と最も多く、以下、「テレビ・ラジオ」24%(県22%)、「新聞」20%(県19%)の順になっている。また、「どれもなし」と答えた者の割合は29%(県28%)となっている。啓発の内容や方法に課題がみられる。
- 人権問題を正しく理解するためには、冊子やパンフレットを活用したり、定期的に講演会や研修会等に参加することが重要であるため、研修会等に参加したことがない人に参加を促したり、冊子やパンフレット

ットを活用してもらいきっかけをつくるための広報媒体の使い方や内容について工夫する必要がある。

- 「差別的な言動」、「差別待遇」、「職場での嫌がらせやいじめ」、「インターネットへの不適切な書き込み」など、差別の実態が社会全体にわたっている。教育や啓発を進めていく中で、家庭や地域、学校や職場などが連携・協働しながら、共通して差別実態の解消に向けた取組を進めていく必要がある。
- 自由記述の意見の中に、今後の人権教育・啓発活動の取組について、様々なヒントや課題が含まれている。

# ま と め

今回の調査結果から、差別等の実態や取組の課題などが明らかになった。

## 《差別等の実態について》

- 「差別待遇(不平等・不利益な取り扱い)」や「職場での嫌がらせやいじめ」、「インターネットへの不適切な書き込み」など、日常生活の中で依然として様々な人権侵害が発生している。また、直接的な人権侵害のほかにも、家庭や地域、学校や職場の中で「平等に扱われていない」と感じている人が、県より多くなっている。
- 「同和地区(被差別部落)の人々に対する差別的な言動」など、依然として部落差別が存在している。

## 《人権に関する考えや認識について》

- 「人権問題は自分に関わる問題」という認識を75%の人が持っている。また、問題解決のために必要な取組に関しても、多くの人々が理解を示している。一方で、「差別される人にもそれだけの理由がある」と回答した人が27%あり、差別を受ける人に対する偏見も相変わらず見受けられる。
- 具体的な人権問題に関する認識については、「女性」、「子ども」、「外国人」、「ハンセン病」などで、県に比べて高い傾向が出ており、理解が進んできていると思われる。
- 災害などの緊急時や近所づきあいにおいては、人権に配慮した態度や行動がとれる実践力が高まっていると考えられる。

## 《同和问题(部落差別)に関する認識について》

- 同和问题(部落差別)についての正しい認識が普及しているとは必ずしも言えない。
- 同和问题(部落差別)の現実や身元調査の問題性などが必ずしも正しく理解されているとは言えない。
- 同和问题(部落差別)についての自由記述の中には、同和问题や同和教育について多様な意見が述べられている。

## 《人権教育・啓発の取組について》

- 講演会や研修会へ「参加したことがある」(40%)よりも、「参加したことがない」(58%)人の方が多くいる。
- 講演会や研修会等についての広報や周知方法に課題がみられる。また、人権教育や啓発の内容や方法にも課題がみられる。
- 人権問題を正しく理解するためには、冊子やパンフレットを活用したり、定期的に講演会や研修会等に参加することが重要であるため、研修会等に参加したことがない人に参加を促したり、冊子やパンフレットを活用してもらうきっかけをつくるための広報媒体の使い方や内容について工夫する必要がある。
- 「差別的な言動」、「差別待遇」、「職場での嫌がらせやいじめ」、「インターネットへの不適切な書き込み」など、差別の実態が社会全体にわたっている。教育や啓発を進めていく中で、家庭や地域、学校や職場などが連携・協働しながら、共通して差別実態の解消に向けた取組を進めていく必要がある。
- 自由記述の意見の中に、今後の人権教育・啓発活動の取組について、様々なヒントや課題が含まれている。

**発行 伯耆町教育委員会事務局 人権政策室**

〒689-4201 伯耆町溝口 647 番地

電 話: 0859-62-0713

ファクシミリ: 0859-62-7172

電 子メール: [jinkenseisakusitu@houki-town.jp](mailto:jinkenseisakusitu@houki-town.jp)